韓國電報　自明治卅七年
二月五日　至五月

日露戰役史料　第七卷

早稲田大學

U伊5
2107
7

宗像田中文庫圖書

明治三十七年二月分

韓國電報集

特
リ5
2107
7

長國軍用炭の到着

長崎の石炭積入

嚴西中立問題と列國

二月一日　仁川發

長國海軍用石炭千五百噸本日唐津ニ到着シ
たり

碇泊中の長國軍艦二隻ハ昨夜徹夜シテ炭庫ヨ
リ石炭を積込みたり

京城發

韓廷の嚴西中立通告に対シ美佛獨伊等の各國

草賊と火賊

より之に賛同の旨を回答し来れる如くに傳へうるも其実右各国よりの回答は只其通知を受取りたりといふに過ぎず別に賛同といふが如き意味は之なきもの如し韓廷が切りに各国の賛同を得たるものゝ如く傳ふるは何の為にせる所なるか故に或は各国よりの回答の意味を誤譯し居るに非むやとの疑ひもあり

金羅、慶尚、忠清の各地方に於ける草賊の勢猖獗なりとの報頻りなるが木浦附近にも三百許りの火賊群をなして横行せりとの報あり

清国派兵

古市徳裕行秦着

二月二日　釜山発

古市京釜鉄道徳裕以下職員十名工夫三十四名

来着したり

京城発

清国公使関派誥の出発は本日俄に見合せ事となりたり其表面上の理由ともする所は毋の病気と云ふにあれ共其実は近頃同人の勢力失墜したるにより整時時局の難を避くる為め清国に赴任せる事となりたるもの今回又内定姜錫鎬、

参議上京の件

火賊と鉄道工事の保護

李根澤、吉永珠平と結託し勢力挽回に勉むるが為め斯くは出發見合せとなりたるなりと又同理由を以て榎逸駐劄公使に内定し居たる李根澤の赴任も見合せとなるべしと云ふ

二月三日　京城発

外部参書官崙託順氏ハ駐日公使熊参書官に任命せられたるが不日韓国皇帝の親書を齎らし赴任の途に上る筈

忠清道天安を去る約二里の處に火賊出没し京

京釜鉄道工事情況

釜鉄道工事請負人阿川組の工場を襲ひたるも模様より一昨日天安より我巡査一名外八名同地に出張せしに果して八名の火賊に接せしより之を捕へんとせしに火賊五名ハ逃走し三名を取押へ其一名暴行せるより正当防衛の為め短銃にて之を撃ち倒したりとの報あり此報に接し当地我警察署ハ巡査部長取調の為め出張せり

仁川発

京釜鉄道の美江永洞間新測量濟三十名は昨日午後二時永登浦を発し目的地に向へり殊餘の

三十名七名日出發せり釜山より陸行せる久野技師は四日永洞に着もべく同後は島致院に在りて工事を監督し岡村技師は大邱に出張もべし又古市總裁に遅れて渡韓もべき大屋技師長は常に身体釜山間を往来して部下を督励もべき手筈なり目下北部工事の線路は振威近にして土工は芙江迄略出来上りたり振威より二十四五哩延長もべき三千噸の軌道八四日入港の汽船にて到着もべく又機関車二台は三月初旬京地着の若水泰より丁河に至る大小の橋梁は三月中に竣成もべくビコ河の仮橋は五月中を要もべし仁川工場にて組立中の橋桁は近々

大賊捕縛別報

加德嶋附近の海賊

諸川に架設着手もべく又永登浦工場にて材料運搬貨車二十名建造中なり

京城浦の線路附近にて昨日八名の大賊暴行したるを以て鉄道工夫は其二名を捕縛し一名を銃殺せり

二月四日　釜山発

釜地の西約三里なる加德嶋の附近に於て海賊出で韓人の積荷を奪ひ去り

金羅道賊徒

京釜鉄道材料の陸揚

朝鮮方面の危険

金羅道口口城附近に等學党蜂盛なりと

（仁川發）

京釜鉄道の鉄軌三千六百噸ガード四百噸上海より入港せる美國汽船アッチエックスにて當地に着せり今午後陸揚中なり

鴨緑江に向ひたる古千の露兵は追々韓國境内に侵入の模様なり又旅順艦隊は昨日当港に向け出発したる古碓艦なり艦隊は未だ入港せざるも本破裂の暗は京仁両地は日本兵なりし早く先ず露兵を見るべし

（京城發）

露兵六個中隊遼陽より鴨緑江方面に向け出發したり又旅順にありたる露國艦隊全部は何れの方面にか出發せりとの報あり一説には右艦隊は陸兵を乗せたる運送船を護送し居るものにて左運送船は或は夫の韓廷との借兵契約の結果当地に来るべき二三千の兵を搭載し居るものに非らずやとの疑あり当地の人心恐々たり昨日未韓廷と露國公使の秘密往復甚だ繁く形勢頗る穏ならず

佐藤技師一行の到着

（仁川発）

京釜鉄道技師佐藤氏以下社員二十二名工夫又十五名金澤丸にて本日来着せり

韓廷の密使

二月五日（仁川発）

前駐露公使館参書官郭高義は朴義淵と偽名し密書を齎して三日仁川発の山東丸に搭じ来り

山東丸の帰航

を経て旅順に向へり

三日寺島板錨泊中を経て秦皇島に向ふ韓廷なり郵船会社の山東丸は今朝泊中を釜山に

居留民引揚の注意

向け引還せり

（京城発）

我公使館にては義州に在る領部外交官補に向つて義州及び安東縣の日本居留民凡六十名を速に引揚げしむべき旨の注意を発せり又城津の在留民に対しても元山まで引揚ゆべき旨を達せるなるも韓国電信不通なるを未だ通知もる能はず

在ソウルの各国公使館

露国公使館附海軍武官一名は三日仁川に向て出発せしが四日の夜に入るも未だ帰来せず或

鎮南浦及び平壌の日本人

ハ旅順ニ急行シ韓廷ニ帰シテ借備セラルヽなりんと
の噂ありたる夜国士官下士等を伴ひ来る者ヨリ
なりんとの説あり又昨夜来韓廷の武官ニシテ
同館ニ出入セラルヽもの非常ニ多き模様なり最公
使館ニシハ日本人の行動を偵察せりん者の
服装を変ヘたる夜矣を毎夜十二時過ぎまで我
居留地附近に派シ居れり

鎮南浦及び平壌にある我居留民は結氷中ニシテ
海上の交通と絶たん且つ夜矣の鎮南浦ニ上陸
せんことを恐れ非常ニ心配シ居れりとの報頻
なり

駐白韓国公使の任命

朝鮮公使の交迭

清国人の報復策

韓廷にてハ新に白耳義に公使館を置くことゝ
なり外部交渉局長金錫圭之に任ぜられたり
韓廷にてハ今回欧米駐劄公使の交迭を行ひ英
国に朴鏞和、独逸に李範晋、夜国に朱錫冕、
米国に閔泰勲の諸氏駐劄を命ぜらるゝ
当地に於ける清国居留民は自衛の為め義勇団
（五十名）を組織する事に決シたり

（屋山愛）

古市京釜鉄道隠岐丸

古市市長鉄道隠岐丸の為め本日釜陽
に赴けり

（京城発）

旅順より電地に達したる電報に依れば旅順は
昨日午後四時頃全艦隊は出発したる後風雨
に旅順口に引返したり

二月六日（京城発）

我公使館の注意に依り義州に於ける岡部外交
官補及び我在留民は昨日午後当地に引揚たり

義州居留民の引揚

義州駐在の憲兵五名は同地を引揚げ暫く平壌
に留まるとのことなり

憲兵平壌に留まる

義州よりの電報に依れば憲兵百名荷車百輌は
達陽より一昨日鳳凰城に到着したり

憲兵馬車の鳳凰城着

大坂高船商社に於ては本日仁川出帆の攝洋丸
金澤丸を限りて釜山仁川間の航路を停止
したり

釜山仁川間の航路停止

（仁川発）

米国運送船入港

海上保険の申込謝絶

大阪商船会社の汽船引上

仁川元山の航路廃止

米国運送船は昨日石炭馬糧を積載して入港せり

海上保険会社代理店に戦時保険の申込を謝絶したり

大阪商船会社は当港及び郡山間の航路に充て居たる瑞陽丸を引上げ大阪に帰港せしめたり

（釜山発）

日本郵船大阪商船の両会社は爾今其航路を釜山港止とし仁川元山航路は廃止したり

古市商会の京城行中止

仏国宣教師の船舶借入

巨済島方面の砲声

古市商会鉄道漕送船は京城行を見合せ来る十日帰国する事となれり

仏国宣教師は何用に供せんとするか洛東江に於ける韓人所有船舶を漕て借入れんと目下其手配中なりとぞ

二月七日（釜山発）

昨日午前八時より十一時に至る間に於て巨済島の東端沖合に於て砲声の轟くを聞けり

古市隠岐帰朝

船便中止と物資

危機切迫と韓廷

古市帝室鉄道隠岐ハ初ハ帰朝ノ途ニ就ケリ

（仁川発）

本日仁川船便杜絶シタルヨリ諸物資二三割方騰貴シタリ

（京城発）

駐日公使代理玄善運ヨリ日露間ノ危機切迫ノ報韓廷ニ達シタルヨリ宮廷ノ狼狽ハ殆ド名状セベからざる程ニテ王城ノ内外ハ侍衛現衛ノ兵隊ヲ以テ厳重ニ警戒巡羅セシム為ノ又徐

仁川ノ露艦

てより露仏党を以て目せられ目下最も勢力を有する貴族高官の首領にして且つ韓皇の最も信頼ある親衛隊長なる吉永駿は頻りに皇帝に対し某国公使館に播遷せられん事を懇願するに皇帝も大に心を動うし其方向に進ひ居うもの也

二月八日（仁川発）

露国軍艦コレーツ、ワリヤク二隻ハ今尚ホ碇泊ノ居リ

支那の入港

仏国公使館と韓皇

支国流船スンガリイオは新潟を抜錨して本日入港したり

（京城発）

韓皇は益々吉永洙等の妖言に惑はされ何時仏国公使館に動座せらるゝやも知れざる模様なり

仏国公使館とも韓皇にて動座の準備全く成り居る模様なり但し浮説

妃皇太子の一派は極力動座に反対し居れり目下王城の護衛は益々厳重にして大砲まで据付けられたり

支国兵と黄海道

清国公使館護衛兵

韓国新公使の赴任

支国兵黄海道大津湾に上陸せりとの電報同地方官より韓廷に達したりとの説もあるも未だ確ならず

今明日中に仁川に入港の筈なる清国流船にて當地の清国公使館護衛兵として清国兵二十名到着の筈なり

支国駐剤を命ぜられたる朱錫冕　更駐剤を命ぜられたる朴鏞和、清国駐剤を命ぜられたる閔泳喆は今明日中に仁川へ入港の筈なる清国流船に便乗し赴任の途に上る筈なり

対韓通牒

京城居留民ら騒ぐ

二月九日（京城発）

我公使ハ今朝韓廷ニ対シ公文を以テ通牒セル所ナリシモノト如シ其内容ハ韓国自ラノ力ヲ以テハ露国ノ脅迫ヲ除ク能ハザルモノナルニ因リ我ノ力ヲ以テ之ヲ排除セルノ手段ヲ取ラベシトいふニ存スルモノ、如ク察セラル

我居留地ハ昨夜来安全ノ保證ヲ得テ居留民ハ国旗ヲ建テ球燈ヲ吊シ歓喜ノ声湧クガ如シ

農中の風

露中の魚

開戦の前兆

開戦

仁川ニ碇泊セル露艦コレーツ、ワリヤーグハ二艦ハ進退ノ自由ヲ失ハツヽアリ

（仁川発）

仁川碇泊ノ露艦二隻ハ港内ニ於テ全然動ク能ハズ

露艦ワリヤグ、コレーツ今出港シツヽアリ彼等ハ自ラ渦中ニ投ズルモノト信ゼラル

露艦出港後間モナク八尾島沖ニテ砲声起リ今尚ホ絶エズ其響居留地ヲ震動セル八尾島ハ露港

日露両国軍艦の戦闘詳報
（敵艦一隻は破壊一隻は自焚）

を距る四海里なり只今陸上より知り得たる所
ハ茲に止まる其結果の良好なるは明白なりと
信ぜらる居留民皆雀躍せり

仁生司令官の率ゐる帝国艦隊若干は水雷艇隊
を引率して戒重なる任務を帯び昨八日午前
九時舳艫相啣ひて当港に入り直に其任務に着
手し務定の時間に全く之を終りたり其結果
として仁川港は昨日来俄に歓呼の聲湧き来
り市街の光景頗る盛なり

當港には去月来各国軍艦の出入頻繁にして現
に帝国艦隊入港当時にも英艦タルボット、来
艦ビックスバルク、仏艦パスカル伊艦エルバ
及び今回の敵手国たる露国軍艦ワリヤツク、
コレーツの二隻碇泊し英艦其他と帝国旗艦の
間に交はしたる礼砲実くや両艦頗る狼狽の
状ありて俄に出港せんとなる模様ありしも其同
的を達し難き情合となり斯くて同夜は無事な
りしが列国軍艦十数隻の在泊と云ひ殊に砲大
砲ち相聞うんとなる日露両国軍艦の投錨し居
ることとて港外の壮観云ふ方なく各国居留
民の視線一に帝国艦隊に集まりたり

本日午前九時より演奏然砲声の陸上に達する
り即ち某国軍艦と露艦との間に或信號の交換

ちゝなる結果コレーワ號先づ港外に出で戎艦隊と砲火を交へたるも優勢なる戎艦隊には敵ひべくもあらざれ少時にして コレーワの艦舷破壊されたり コレーワに次でワリヤワク亦戰闘準備を整へ出港し来りて戎に應戰したるが忽ちこれ戎艦隊中の某艦より發したる砲彈の虜るこ マストを折られ乗員に少なからざる死傷を出したり

コレーワは到底海上に浮ぶ能はざる程度に破壊されたるを以て多數の死傷者爾死者を出したるとと勿論なりんが幸うして上陸せるものは概して俘虜となり ワリヤワクはマストを折られながらも頗に發砲を續け交戰數時に渉り艦體に無數の損傷を受けたる從圍嶋附近に逃れたるが其後自ら火を放ちて極火の裡に悉くの情況に陥りたり

此戰闘は午前九時半頃より開始し午後二時頃に終りたる模様なるが敵艦の最後右の如く脱きに反し帝國艦隊には殆ど損害なき有様にして在留日本人は云ふも愚か清韓兩國民は此戰況を聞き喜悦の情に堪へざるもの、如し

尚仁川生田令官の旗艦には森山參謀乗組み居たり

海戰參與の將校

敵艦の最後

本日港外に於ける海戰に參與したる帝國艦隊の司令官は前日報告の如くなるも其他某々諸艦の乘組中重なる將校は八代大佐、和田大佐、毛利大佐、宮地中佐、東郷中佐、西垣中佐、依田中佐の諸氏にして以下の諸將校に就ては未だ詳細を聞くを得ず

夜艦コレーフの帝國軍艦より砲撃を受けたるは事実なれども其損傷甚しきより遂に港内に入り自ら沈没したる形蹟なり

ワリヤツクも自ら火災を起したるはコレーフと同じく港内に入りたる後の事にして同艦の

帝國艦隊の大体

從艦の乘組員

林公使の謁見
韓皇の依頼

此悲惨なる事を敢てせるに至りたるは優勢なる帝國艦隊と對戰の力なきを自覺したる結果なるかの如し

帝國艦隊の大体に於て無事なることは確なれども詳細なる事実は未だ明らかならず

ワリヤツクの乘組員は總數四百五十名内將校廿一名コレーフは總員百名内將校十二名なり

（事情終）

林公使は本日參内皇帝に謁見して帝國の使は

韓国皇帝の慶成

請兵入京せん

来年堺に居したる行動に就て説明せふ處なり
し皇帝は大に我国に信頼せんとせる意向を
示されたりやの説なり

韓国皇帝は仏国公使館に播遷の準備を為し度
運営と同公使館との間に兵卒二百名を配置し
て万一を警戒せしめ居り而して嚴妃及び皇
太子は極力之に反対を唱へうるも韓皇の決
心は容易に動かす可からざるの模様なり

今明日中仁川入港の支那汽船にて同公使館保
護兵二十名来鮮せんべし

三韓国公使

義国公使追放さる

義国公使朱錫冕清国公使関泳詰英国公使朴鏞
和の三名は別項清国汽船にて何れも出發赴任
せべし

二月十日（京城発）

林公使より義国公使パブロフ氏に對し某中立
国公使の手を経て立退を命ぜらるゝに依り
當地駐劄の兵士等を引率して明日出發仏国軍
艦パスカル號にて帰国せべしと云ふ

仁川義艇の死傷

日上後報

（仁川加藤領事発）

パスカルの士官の語る所に據れば敵国側の死傷者八百名以上にして我傷者の内二十八名ハパスカルに在り残三十名はタルボットに在り其他ハ伊太利軍艦エルバに在れども人数は不明負傷者の中九日以来死亡して死體を陸揚したるハ六名

前報負傷者の中士官二名ありワリヤフク艦長は生存してパスカルにあり

二月十一日（仁川発）

九日の總攻撃
敵艦の大損害
我艦獨島ヲ

本日当地に達したる情報に依れば旅順港外に於ける八日の海戰ハ我水雷により敵艦三度を衝撃したり

九日午後より總攻撃を始め此激戰に於て敵艦ポルタワ、ペイアナ、アスコルド、ノーヴイツクの四隻を破壊したり帝国艦隊中磐手は多少の砲撃を受けたるも艦體無事、八雲は僅に一度の敵彈を被りたるのみ其他ハ各艦何れも無事なり

八雲に山階宮殿下御職務を以て御乗艦ありし磐手乗員中多少の死傷者ありしやの説もあれど

仁川海戰第一報

日上第二報

し極めて少數なるが如し

義國艦隊は是れに対して事実上全く戰闘力を失ひたるものなり

二月九日（金山發）

今朝午前八時より仁川沖に於て日露両国艦隊の砲戰始まり勝敗未だ決せざる由

仁川碇泊の露艦二隻より發砲一時頃迄激戰の後露艦の一隻は砲彈を受けて前方に傾き一八帆柱を折られ二隻共行衛不明となれり

日上第三報

居留民の避難

昨日午前十一時四十分露艦ワリヤーグ、コレツの二艦出港し零時二十分砲撃を開始し約四十分にて露艦二隻は北に進路を港外に碇泊せる我艦隊は此處迄追撃せず午後四時に至りコレーツ號は盛に火薬庫に火を点じて自ら破壞沈没し ワリヤーグ號は六時同じく火を点じ今尚ほ燒けつゝあり我艦の模様は一切不明なり

（京城發）

我居留民は昨日来安全の保證を得たるを以て各戸国旗を掲げ何れも安堵の思を為して欣喜

（仁川発）

沈没せる二隻の露艦に対し水兵一隊を中
之み秋はこを捜索今夜収容して敵へ不意人
サバチント、キンスボルグ方へ向くるに次し
たり

林公使は伊地知少将を同道し本日午後三時半
参内謁見せり

昨今我が行動の敏捷なる此方面に於て能く露
国の機先を制したるより韓廷も大に悟る所あり

露艦捜索の情況

林公使と伊地知少将謁見

韓廷に及ぼす影響

まもなく如く韓皇の仏国公使館動座説も沙汰
止みの模様なり

二月十二日（京城発）

露公使パブロフ氏今朝八時三十分発の臨時汽
車にて当地を引揚げ仁川に下る其一行は露公
使夫人森林公社のギンスボルグ氏其他宣教師
及び在留人約二十名、士官三名、兵卒七十二
名にて我より の注意に依り護衛として我憲兵
仁川まで同乗したり西大門外停車場には我守
備隊一箇中隊にて之を護衛し見送人には林公使

負傷者と死骸

萩原書記官三浦領事を始め其他の外国公使領事等にて朝鮮人の見送り一人も見受けざりき

（仁川発）

露国軍艦士官の重なるもの、死骸は所在陸上に軍艦負傷者は隠て露国軍艦に収容されたりけり

大屋亦屋鉄道技師長伝後川丸にて本日来着

二月十三日（仁川発）

亦屋技師長

損傷表

九日の旅順海戦に於て損傷を被りたる露艦は既に軍港内に入りたるものありとの情報当地に達せり

二月九日（京城発）

捕獲船に対する諸説

今回露国船を捕獲せし事に付き批難を試むる者あり其理由は第一交戦に先ちて捕獲せし事第二捕獲船内に商船を含み居る事、第三中立国たる韓国の海上に於て捕獲せし事等なるが之に対し第一に最勇艦隊は既に武装し居た

る事、第二ハ東清鉄道會社の汽船ハ商船なるも露國政府の所属にして我軍事の使役を為し其行動、障害を與へたる事、第三ハ韓国ハ嚴弱にして到底中立の実を挙ぐる能はざる事等の反対説多数を占め前記の批難ハ国際法上秩毫の價なしとして排斥せらるつもり

二月十日（釜山発）

当地駐在露國領事ハ引揚の準備中なり

（電）
大石東京鉄道技師長本日当地に来着せり

露國領事の引揚準備

大石東京鉄道技師長

仁川の海戦詳報

（京城発）

昨日午前日本艦隊司令長官ハ露國軍艦ワリヤーグ、コレーツの二艦に対し信號を以て立退を命じ両艦ハ午前十一時半を以て出港し来りたるにより我艦隊之を追尾したるに正午頃より八尾島沖に於て露艦より先ず發砲し夫れより引續き両艦より猛烈なる砲声起り交戦約四十六分ワリヤーグ號ハ遂に船體に大損傷を受けコレーツもマストを悉く折られ両艦共に全く戦闘力を失ひに至り午後一時十分を以て小月尾嶋辺に引返し波上に漂泊居たる後四

時半に至りコレラ號は戰闘の結果大藥庫より
火を發し爆然天地も碎けん許りの響と共に
て裏波しきり暫くしてワリヤーグ號も亦自ら
船體に火を放ちて其和火は更に東清鉄道
会社運送船スンガリー號に移り七時半又大笑
を起して沈没したり此戰闘に於て露船より發
射せし彈丸一も適中せるものなく其技術の
不熟錬等に驚くばかりなりしと隨て我艦隊は
少しも損傷を受けず一の戰死者も出さいり
し露國軍艦の戰闘員は一時十月尾島に逃れし
者なりしも何れも因下破治中なる仁川軍艦は
スカルに逃れたるよりも同艦之を收容し居れ

韓国皇帝の悲心

るが何れ捕虜として我に引渡さるか或は其武裝
を剥ぎ他の中立地に於て保護せらるるか近く解決
を見るべし又我艦隊は一昨日仁川に向け進行
し来れる際木浦沖に於て露國汽船ロシヤ號を
捕獲して引連れ来りたりと

林公使伊地知少將萩原書記官は昨日午後三時
半韓国皇帝に謁見したるに皇帝は既に列国に
対し嚴正中立を声明したる以上は決して外国
公使館に播遷せる事なき事及び日本の軍隊に
は飽くまで信頼せる旨の仰言葉なりと

高麗死傷兵と敵兵

二月十二日（仁川発）

我国軍艦の死傷者八百餘名にして美仏伊の三国軍艦に分乗せしも敗兵し同様分載したり

二月十日（京城発）

仁川海戦参加艦

昨日（九日）の仁川海戦に参加したる各巡洋艦隊は浪速浅間高千穂明石新高千代田の六艦と水雷艦五艦より成る

二月十二日（京城発）

旅順勝利後報

北韓居留民引揚

当地に達したる確報に依れば九日戦艦隊は旅順を衝き砲撃約一時間に亘り敵艦おれたれば（戦艦）ヂアナ、アスコルド、ノヴヰツキ（以上三隻巡洋艦）の四艦は水雷に損傷を受け負傷者下士卒合せて五十二名死者水兵九名なり橋戦艦隊は陸上の砲台を砲撃したり敵の負傷者三名死者一名戦艦隊無事なりと

二月十三日（京城発）

我が居留民は昨日無事平壌に着し城津の居

捕虜並に敵情

元山支人引揚

面氏ハ昨日元山ニ安着せり

妻沈せらるたる支艦の水夫ハ過て武装を解き
再び戦事に従事せざる事、以後上海以北の地
を踏まざる事を條件として中立国の軍艦に
て上海に向ふ事を許さるべし
鴨緑江附近露兵の行動に付ては昨今種々の
風説あるも未だ其消息を明かにせず

二月十二日（元山発）

来清鉄道汽船会社出張所ハ本国より今年ニよ

仏国の支館保護

支国派の潜伏

り捕鯨船にて引揚たる捕鯨船ミカエルし二隻
の帆船を残して昨夜汕令に探海燈を光
を認む多分軍艦なるべし

二月十三日（京城発）

支国公使撤退後の同国公使館に多分仏国国
旗を建つるならん

二月十一日（京城発）

韓廷内に於て徐て支国派を以て目せらる

捕虜の始末

露艦の死傷者

こ玄尚健白時庸等は目下仏国公使館内に潜伏
し居るとの説なり

今回露国水兵の捕虜となるべき六百名は仁川
の演劇場及び元典裏局に収容せる筈なり

ワリヤーク號艦長は負傷し「コレーツ」號艦長は
無事なりと又露国水兵の負傷者は四十名戦死
者は三十名なりと

二月十一日（仁川発）

獨艦イ入港

月尾嶋の守備

露仏領事の仏艦訪問

看護婦人会の篤志

獨逸軍艦ハンザ號膠州湾より入港せり

我軍が占領したる月尾嶋の露国石炭庫に我
守備兵を置くこと

露仏両国領事は本日磁治中の仏艦を訪問せ
り

露港看護婦人会は赤十字社に加盟し毎日練習
をつゝけり

二月十三日（仁川発）

露韓義勇隊出発に向ふ

馬船聯隊帰港に向ふ

加藤大三輪両氏

露国公使を載せたる仏国軍艦ルスカル號は今夕芝罘に向け出発の筈

昨日入港したる馬逸軍艦は本日午後五時頃より清に向つて抜錨したり

二月十二日（東京発）

加藤顧問昨日午後五時より七時迄韓皇に謁見し又是迄韓廷の或一派の為め屬し謁見を阻止せられたる大三輪長兵衛氏は八時参内十時過ぎ迄種々の下問ありたり

露の負傷兵収容

馬逸軍艦

露国公使館仏兵護衛

二月十三日（仁川発）

露の負傷兵は本日十二時上陸し本軍隊にて借入れたる英国教会医病院に収容せらるべし此始末の付く迄は仏艦出港せざるべし

馬逸軍艦メイが今午後九時入港

（時事新報 仁川特電にて 二月十日とき）

（東京発）

露国公使館に仏国国旗を掲げ仏国番兵にて

支の負傷兵施療

支兵の行動

等備へ居り

支国水兵の重傷者三十六名の治療を我に依頼し来りしに我々は仁川美国教会堂病院を借りて之に収容し我醫師をして治療せしむ

和田漢城病院長は彦の仁川に赴けり未だ未十年社の設けなき彦の仁川の我看護婦人会に

し救護を引受けたり

聘鎮江府近支兵の行動に就ては昨今種々の風説あるも未だ其真偽を明らかにせず

我居留民

支兵の上海撤退

支公使の出発

義和の居留民は昨日無事平壌に着し城津の居留民は昨日元山に安着せり

仁川の支国水兵は總て武装を解き戦闘後事せざる事及び戦争後結後直上海以北に入り来らざる事等を誓盟せしめられたる上更に上海に送れり

二月十二日（余埠急）

支国公使は本日午前八時二十分公使館員保護兵八十名語学校教師ビルコフ氏を引率し我

韓帝の慰問使

拿意を以て仕立てたる京城停臨時列車にて出
發したるが同公使館より停車場までの道筋は
我軍兵守備兵を以て警護せられ見送人は我文武
高等官其他各国公使夫人等にて極めて盛な
りしも韓廷の官吏は皆無なりし伊地知少將は
特に仁川まで同車せり南良公使は我に対し
仏公使を任て深く感謝の意を表したりと

二月十四日（京城発）

韓皇陛下は我軍隊に対し遠来の労を慰むる為
め慰問使を發し牛酒、煙草等を送致せり

我国派にして目下仏国公使館内に潜伏せる李
啓燦（？）及び玄尚建の両人は本日本官に免
ぜらるなり

二月十三日（城津発）

我国兵六十名ロクトンに来り慶興より糧食数
夫を徴發中なり

二月十五日（京城発）

日本居留地の大災

今朝二時半秋居留地より出火し三十四棟を焼
払ひ五時鎮火せり

二月十七日（京城発）

平壌方面のコサック兵

一昨日義州発にて昨日当地に達したる信ぜべき電報に據れば コサック兵二十名義州を経て
平壌方面に向へりと云ふ

鴨緑江附近の露兵

露兵二千餘名義州に達したりとの朝鮮人の電
報に恐く其の対岸なる九連城に達せし事の誤
りならん

露国領事に引揚を命ず

露公使出発と水兵展開

秋吉局者は元山、城津、馬山、釜山等に在る
露国領事及び同人民に引揚を命ずる方針なり
といふ

下仁川たる露国公使一行及び水兵二百六十餘
名は本日出帆の佛国軍艦パスカル號にて仏領
柴棍に向け出発せしが同水兵は同所に捕虜せ
らるべしといふ甚豈撃に仏国公使保護を與へ
たり又英国伊国の軍艦に収容したる水兵及び
スンガリー號の乗組員六百餘名は未だ其處分
決定せざりしと云ふ

可憐の在外ヶ国民

京元間の郵便物

二月十六日（金曜）

公立小学校にて本日宣戦勅語捧読式を終へ一千餘名の男女生徒に職員に率ひられホツペイ山に登り天皇陛下の萬歳を唱へて解散せり

（元山発）

今日より京城元山間陸路郵便通送を開始せり

（馬山発）

戦捷祝賀会

森林会社役員の引揚

在鮮支人の保護

秋領事は昨日学校に居留民を集め宣戦勅語捧読式を挙げ終て戦捷祝賀会を開き頗る盛会なりき

（京城発）

龍岩浦にありたる森林会社の役員は傳て安東縣に引揚げたる由龍川郡守より韓廷外部に電報ありたり

伊国公使は昨日外部に公文を送り我国公使京城を引揚げたるに就き今後韓国に於ける我人の権利に関し交渉を要する事情に付本公使代

前露國公使ノ通告

露國負傷兵ノ頑
息秋彈丸ノ猛烈

理として拱手すべき旨を通告したり

既に平壌を引揚げたる露公使は外部に対し今後韓國に於ける露國公使館並に露人の利権及び下婦人の保護は仏國公使に委任したる旨を通告し為韓人能く保護を與へられたき旨を通告したり

仁川の英國病院に収容されたる露國敗兵を見舞したる某氏の談に拠れば同國負傷者は二十四名ハ戦闘後伊艦に於て只一回繃帯を施せしのみなるも傷口の腐敗せしもの多く内重傷者ハ八名にして中に最も甚しきは大腿を切断せし者一彈丸の破片百餘個全身に乱入せしもの一箇にして此等ハ到底生命覚束なき模様なり初め右負傷兵が敵の手に収容されし時は彼等何れも逡巡の色ありしも一人率先して不潔狭隘なる仏艦の船室にありて不完全なる醫療を受くるよりは寧ろ一身を日本に託せんと言ひ出でしもの多く他も皆其実に従ひ只今の病院に引き移らるに斯く行き届きたる手当を受くるは意外なりとて感涙に咽ぶ居れり

露夷江を渡る

此等水兵ハ訪問の第氏に対し日本軍艦の彈丸
猛烈なりしに付き語られる様露艦黒士官のぬき
は彈丸雨中の后ろ手のみ甲板に残りて其他ハ
影も形も止めざるに至りしものなり又彈丸爆
裂の際は其破片甲板の全面に散布し危険名状
なべからざりし
軍機漏洩を憚りて仏国より我に託せし負傷
水兵ハ何れも下士以下の者なれば戦闘に関せ
る詳細の事ハ之を聞く能はざりし云々
臨海江の対岸九連城に集中し居る露兵三千人
の内二千人は大砲十四門を引き本郡に進入し

露国負傷兵慰問

ペスカドル號の拉致

来りたりとの電報義和郡等より昨夜韓廷に達
したり

（仁川発）
山本某一艦軍醫長ハ司令官の命により昨夕上
陸今朝臨時第十等病院を訪ひ同院に収容せら
れ居る露国の負傷兵を慰問し旦つ診察したり
露国公使パヴロフ氏を乗せたる仏艦パスカル
號ハ漸く今朝上海に向ひ発錨したり露の敗兵
も残らず同艦にて送還せり

二月十七日（仁川発）

支那鉄道汽船会社の分店

当港停車場の西隣なる支那鉄道汽船会社支店
ハ昨日我領事立会の上軍隊ニ於テ占領シタリ

野戦郵便局の設置

昨夜より当港ニ野戦郵便第一局を開ケリ

親露派の逃亡

（京城発）
宮廷ニ於テ隠然大勢力を占め常ニ日本派に反
対サル妻錫鎬ハ韓皇ニ告別の拝謁を願ヒ昨日
慶尚道尚州ニ向ヒ逃れ去る又親露党たりし朱
錫冕も何處ニか遁走せり其他従来親露党と称
されしものハ皆方向に惑ひつゝあり

二月十八日（京城発）

米国公使と北韓開放

米国公使ハ昨今引続きて義州龍巖浦の開放
を韓廷ニ迫りつゝあり

林公使と武之将の謁見

林公使ハ日程未着したる旅団長木越少将同伴
ニて明日参内韓国皇帝陛下ニ謁見せる筈なり

義州附近と俄兵

義州郡守より昨日韓廷ニ達したる電報ニ依れ
バコサック兵二十餘名対岸九連城方面より

義国党捕縛せらる

難邦人の来着

軍用切手の発行

来り本郡附近の須峯を過ぎて引返したりと

義国派なる内宮毒錫錫は営中に出入せるを禁せらるゝ当地の自邸に潜伏し居る様又毒錫錫は何處への逃亡して行方知れずと云ふ

（仁川発）

旅順口大連湾の引揚邦人を載せたる堰別號八本日黒崎より入港の著

軍用切手昨日より当地に於て発行せらる

咸鏡道鉄上の敵兵

義国負傷兵慰問

咸鏡北道鐘城郡寺より韓廷に達せし電報に義兵数百名内地に来り其地形を偵察したる後会寧縣に向ひたりとあるも未だ確なるにあらず又龍巖浦に目下数名の番兵居るのみ曾て鴨緑江及び豆満江沿岸の敵に書ら防備の態度を持し居るものゝ如く未だ南下の模様を見ず

二月十七日（仁川発）

廣瀬大尉艇長八氏生司令官の命により義国負傷兵を見舞ひ菓子煙草を送れり

林公使の渡見

在張順露艦の消息

墺国電線の敷設

二月十九日（仁川出発）

林公使朝日午後三時半本船少孫と帯同して慶運宮に参内渡見せり

去る十四日張順引揚邦人の護に従ひ仏軍艦の沈没せるもの二隻船渠にありしもの二隻其他亦多少の損害を受けり無事なりしも六隻なりと

（釜山発）

京城釜山間の電線墺国の敷設中の一隊は来る二十五日頃敷成せるべきなり

露国領事以下の引揚

露国負傷兵の引渡

遭難者の慰問

露国領事コザコフ氏以下の露国人は隠て本日引揚の筈にて只今（午後三時）門司へ便船を照会中なり

（仁川発）

米国軍艦タルボットは去る露国の負傷兵を名古屋病院に引渡さんと本日因幡より秋領事渡韓の照会し来れり

加藤領事は過日猛烈にて今朝着したる張順口大連湾の遭難者を慰問せり帝国引揚人は

用船ニ移サル帰国セラル若カラス

二月二十日（第壱号）

鴨緑江左岸の敵情

戦況より韓廷ニ達セル電報ニ據レハ昨十九日コサック騎兵ハ三百名戦況ヲ、来リ平壌の方面ニ向フ模様ナリ居ニ安州附近の民情恟々タリト謂フ

豆満江畔の露兵

咸鏡道鐘城表の電報ニ依レハ露兵ウスリーに於ける主力の一部を割きてポシエット湾に集中せんとするの模様ナリ同湾の南端カゲアスキーに多大の兵を駐屯せしめ糧食を蓄積し居れるが近頃ニ至リ輝春及寧古塔にも露兵續々入込み来リたるが居ニ露兵の出没するもの多シ

露船の損害

（仁川発）

沈没したる露艦の一はレトウイザン一は不明大破損を受けたるはアスコルト、ボルタワ、フエガレウイッチなりと

温和流失

温和　旅順　大連の引揚人を載せたる温和號は其三合の二を沖用船ニ移シ今朝長崎ニ向ケ

露国廣兵始末

出発したり

英艦にありし露の負傷兵を臨時赤十字病院に引取方に付き照会ありたるより當領事に場所狹隘なるをいとて五名丈け引受けんことを震照せしに英艦は之を謝し昨日入港の同国軍艦アンフィトライトに移し殘餘の廣兵と共に今朝中立国として取扱れの下に香港に送られたり

温州號にて到着したる避難者の中哈爾賓法人より来りたる者八孫に困難を蒙り流事中番兵等の迫害を受けたり即ち食物を與へられず又賄ひを許されず金品は強奪せられて大石橋に着するや皆下車を命ぜられ男女を引き離し婦女は直に營口に送り男子は一夜牢獄に投ぜられ翌朝旅順行の汽車に乗せられ十二日旅順に着し十四日温州號にて芝罘に渡りたり而して營口に送られたる婦女は非常の虐待を受けたるものゝ如く營口領事の救助により漸く十八日旅順口に着したるなれども同港より如何にして芝罘に引揚くべきや未だ知る事を得ず其夫や主人又は之が居る芝罘に残り居れり本日着したる避難民四百餘名は温州號と汽用船とに分乗して帰国する事となれり

蔚山龍巖浦開放案

米国公使の答弁

温州難民出港の遭難者

（京城発）

韓廷ハ一面ニ中ニ再ビ蔚山龍巖浦開放案を議
政府会議ニ付セラル若なるか今回ハ無論故障な
く可決せらるべし

米国公使ハ本日午後四時参内謁見セラル蔚山
龍巖浦開放ニ関シ奏上セラルヽ筈なりと

加藤仁川領事より當ニ使館への報告ニ據レバ
旅順より英船温州號ニて仁川ニ着したる引揚
邦人四百五十名ハ仁川にて上陸したるも

鴨緑江左岸の敵情

の三十名を除き約三百二十名ハ各自の希望ニ
從ひ長崎又ハ門司ヘ汽船ニて送還し残りの
百名ハ温州號ニて長崎ヘ送りたり避難者の多
数ハ財産を悉く棄テ来れるものなれバ中ニハ旅
順より芝罘を経て仁川ニ至る迄ニ早くも餓
ニ迫りたるものあるも仁川居留民ハ温州號ニ
残れる避難者ニ対し六日分の食物を寄贈した
り

高の斥候七八名安州の附近なる嘉山十里亭と
称する所ニ到着し又別ニ義兵十五名其附近の平
地院ニも到着したる旨韓廷ニ電報ありたり

日上後報

敵兵成川に現はる

二月二十一日（東博物館）

昨夜平壤より當地の戍方に達したる電報に據れば敵兵五百平安北道定州に現はれ同日午後二十名博川江を渡りたる由昨夜の午後二十名の来りたる嘉山十里亭は博川江の北岸に在り此等の報道を綜合するに敵兵が既に該地方まで進入し来れるは事実疑なきのみ

多分休候なるべし敵兵三十八名平安北道成川に来り米人の殷山（雲山）金鑛事務所を占領せる旨平壤より當地戍方へ電報ありたり

嘉山郡に来りし敵兵の数は一百騎に過ぎざるも博川江に来り居る敵兵は未だ安州に入り込まざる又該兵候の後には多数の敵兵引続き来る模様なりと

敵兵南下の報頻々

李根澤氏の任命

李根澤氏は巷川の観察使に任命せられて既に赴任せり又内密錫鎬氏は同地に遁避し居る模様なりと云ふ

韓廷外部の挽救

韓廷外部は此程左の意味の公文を佛国公使に

彈藥輸送の件

致して前義公使パロフ氏に輸送せんことを
依頼せり曰く本大臣が貴公使帰国の通牒を仏
国公使より接手したるときは既に貴公使出発
の後にて見送りの禮を欠きたるは遺憾千万な
り貴使の照会に因り今後露韓両国の交際事務
へ適て仏国公使と商議をべし

（釜山発）

城津よりの報に依れば同地方に於て北青の地
方廟と結託して彈藥を輸送せんとしたる者あ
り我警察署発見して之を停止したり

多摩川丸の所報

韓国通譯者の仁川行

沈没露艦の記事

二月二十二日（釜山発）

一昨二十日夜多摩川丸凡當海峡に於て四隻の怪
しき軍艦を認めて逃げ帰り昨日下関へ向け出
発せり

本日の船便にて韓語通譯者百十二名仁川に赴
けり

（仁川発）

沈没露艦ワリヤーグ號の海軍者に於て引き揚
ぐるやにて近日裏方港湾の来るやう談

榜船入港

平安北道の敵情

なり

榜送軍艦テケス號昨日入港したり

二月二十五日（京城発）

義兵一千名平安北道の定州に到着し又嘉山に
も四百名新に来着安州に於て更に二十名の勝兵
斥候を増したる旨平壌の朝鮮人より来電せり

二月二十六日（京城発）

敵の偵察兵

義兵安州を通過

林公使及び駐在武官の諭告

昨電成川に来りたる義国斥候兵は既に安州を
過ぎたりとの報あり

二月二十五日（京城発）

平壌来電に昨日の義兵斥候は安州を通
過せりと而して沿道の電信局は皆義兵に領
せられ居り安州の電信局は今朝迄安全なり
と

林公使は本日午後井上佐々木大谷小原等の諸

岡部外交官補の北韓談

挺校を帯同して参内謁見せ

去る五日義州を引揚げたる岡部外交官補は平壌を経て昨夜当地に帰着せり其談に義州引揚本邦人の内八十七名丈は今猶平壌に残り十六日同地出発の時迄は人心平穏なり道路は義州より嘉山迄積雪少く随て解氷期に際しても道路の困難は左程なるべきも嘉山より南方は迄の暖気の為め泥濘深く非常に困難なり又鎮南浦の解氷期は本年は例年に比し早うらん模様なり沿道の朝鮮人は非常の好意を以て日本人を迎へ居れり云々

新井海軍少将

高雄丸の出航

（仁川発）

沈没汽船ワリヤーグ孫引揚げの為め新井海軍少将近日当地に来るべしとの説あり

大阪商船会社二三郎氏所有汽船高雄丸は二十二日午後四時釜山に向け帰航の途中翌二十三日午前零時半安眠島沖かつぴとす南西第四哩の所に於て坐礁したるを同五時当港に向へる阿波丸発見し救助に赴きたるに第一船艙を破りたるも二重底なれば航行差支なしと認め阿波丸に其侭当港に入港し来れり

李容翊の罪後遷

内藏院卿と度支部大臣の更迭

加藤顯圓の帰朝

二月二十四日（旧暦）

李容翊氏は徳王の信任を統帥せられ常に陸軍参将の資格を有しては本に漫遊せらるる事となれり

尹雄烈は内藏院卿に李道宰は度支部大臣に任せらる

加藤顯圓は或る使命を帯び最近の船便にて出發帰朝せられ

李容翊氏遂に事中

白耳義領事の国書に接受

噫日韓間に於ては日本の実力俄に加はり来りたるに拘はらず諸般の交渉問題免角遅滞して捗々しき進行を見ざるは李容翊氏主として之を阻碍せしに依り今回同氏を日本に漫遊せしむる事となりたれば爾後日韓の国交に一層親密を加ふるに至るべし又李容翊氏の免官に依り尹雄烈氏は内藏院卿に朴定陽氏は度支部大臣に清安君は典圜局監督に任命せられたり

白耳義領事は国書及び大綬章を韓国皇帝陛下に捧呈せん為昨日謁見を請求したり

平壌附近の敵情

安州平壌電信中断

秋保参謀の報告

定州附近に在る露兵は昨日未移動の報なし清川江を渡りて前進せる露国斥候は安州を中心として絶えず平壌方面へ捜索隊を派し居り又豆満江沿岸には未だ露兵南下の模様なし因て方面は道路極めて険隘にして大兵を南下せしむるには頗る困難なり

安州平壌間の電信は本日午前十時露兵の為めに切断せらる

秋保参謀と敵の斥候隊は肅川に於て互に其姿を見るに至るまで接近したるも銃丈を交ゆるに至らずして相別れたり

遼河の敵水雷

遼右の敵情

（天津発）

露国は遼河の河口に水雷を敷設せんとす

昨日新民屯に百名溝幇子に二十名の露兵来れり但一田庄台と二道溝（二龍江？）には露兵二百名位宛毎日營口より夜来りて朝帰り警備居れり

（仁川発）

加藤龍岡と李容翊

昨夜下仁、旅順丸に乗り込みたる李容翊氏は明日未明岩佐星と共に日本に向て発せらるる韓廷顧問加藤博士式も同船して一時帰国せらるる

旅順帰客談

本月八日より同十四日迄旅順口にありたる人の談に曰くおべーが號の外全く損害を蒙らざるものなく何れも港内に逃げ込み又海岸に着手せり尚は十四日波撃の際港口に坐礁し居たるレトウイザン號は再び水雷に中りたる模様なり

旅順口の糧食は最初五箇人一年を支持たる準備ありしも各自私して之を出さざるより目下僅々三箇月を支ふる過ぎず

二月二十七日（京城発）

李容翊氏は本に送られたる既報の如くなるが南氏権勢を怨こして国民の怨を買へり李根澤は憲兵の官職を剝れて故郷に引退し関泳詰は清国公使となりて都門を去るべし此他吉原氏

佛派の屏息

朱 云南徳の法の如き迂来義佛派を以て用せられ韓皇の聰明を塵埃に帰せしめて引退せる事となるべし

伊国水兵の分二回入京

加藤顧問と李翊

李夏栄と吉永洙

韓国参政の新設

仁川に居る伊国軍艦乗組水兵二十名昨日入京
せり多分は公使館護衛兵交代の為なるべし

加藤顧問は昨夜汽車にて仁川に下り本日李
容翊と同船して本日出京の筈

吉永洙は速清道泰山郡守に李夏栄は通信院總
辦兼議政府参政に任ぜらるゝなり

韓廷は元帥府を警衛院と改し参謀部を新
設くる事に決せり

米穀等業務責

戦争の結果多数邦人の一時に入り込来りたる
為め当地居留民は数日来米の欠乏に苦み居
しが仁川にて五百石を買入れ内二百六十石は
既に着し残りの分も近日到着の筈にて一石の
相場二十一円にて売渡し居り尚ほ我公使館
事務韓廷に対し此際貯蔵の安南米を相当價
格にて一般人民に売渡さしむる様照会中なり
副食物も亦非常に拂底にて只さへ野菜は冬期欠
乏を告るが例なるに昨今は殆ど皆無の姿にて
支那人の手より得る一株九十銭といふ高價の
支那菜なるのみ其他雑貨の價格平素に比六倍

義州開放の声明

金鑛株取消

居るかみならば多くは面切なる事に平壌は其價格信額以上なる供給を持続し居れり

二月二十六日（京城発）

韓廷ハ昨夜我林公使ニ対シ義州開放を聲明せり

雲山及ビ殷山金鑛の美来人は一昨日平壌ニ引揚げたるとの報あり未だ確報なき同鑛山ニ傭はれ居る二百餘名の日本人も多分同時に平壌に着したらん

龍巖浦開放問題

軍用手形の事

安州平壌間の兵

外部より達したる義州開放の声明書には其期日及び指定場所は再び聲明せべしとあり義州開放の結果他に一箇所鴨緑江に船付場を雲山に設置する事勿論なれば龍巖浦の開放も自然此内に含まるる事ならん

軍用手形は韓国境内に於ては廢行せざる事となり

安州と平壌との間に兵二百配置さるる

蛙田公使参書官

仁川釜山間の航路開始

電信の完成

後藤事業の帰国

（仁川発）

日本駐在韓国公使能冬書官カンキジュン氏は本日任地へ向け出発したり

（釜山発）

大坂商船会社にては来る二十九日筑後川丸より仁川釜山間の定期航路を開始せる筈なり

我電源は去る二十三日を以て落成せり

後藤顧事其他の帰国人は明後日当地を出発して門司に赴き九州鉄道にて長崎に向ひ同地より上海を経て帰国せる筈なり

西本願寺法主代理

西本願寺法主代理の若なり

韓廷の国是決ず

二月二十七日（京城発）

韓廷は昨前会議の結果国是の方針を左の如く議決せり

一、韓国は東洋平和を確立せる為日本と交隣を遠く保持し一意日本に頼りて内政改善を図

日韓同盟の発表

京城鉄道の要求

る事

二、韓国皇室は神聖に保持する事

三、韓国は親密なる友誼を以て日本に頼り相互及び領土の保全を図る事

四、（省略）五、（省略）

六、韓国は日本の友誼に反する如き協約を他国と訂結せざること

日韓間に（法律）せられたる議定書は韓廷に於て凡本日官報號外を以て発表せられ

林公使は昨日外部に対し日韓両国間に成立し

駐清韓国公使の発

不高位者傾向

安南の駐兵説

たる新議定に基き京城鉄道敷設の件を要求し

たり

（仁川発）

駐清公使閔泳喆氏は今朝英国汽船にて赴任の途に就けり

（京城発）

大江草氏は自ら運動して宮内府最高顧問となる

の契約を韓廷との間に締結せり

平壌監理より昨今韓廷に到着する露国人を

英米武官の報告

る電報は誇大に失する傾向あり目下如何の義
兵八七十餘名に過ぎざる由

當地英國公使館附武官及び米國の某陸軍少將
八各其本國に仁川海戰に関する報告書を送れ
り中に曰く日露兩軍砲火を開きたる順序に付
てはコレーフ氏英砲一たる旨同艦の策
組員自白せり本軍上陸の設備は迅速完全に
て各國人を驚ろかしめたり又兵士の靜粛なる事
殆どなきが如し

二月二十八日（京城発）

韓皇の帝下賜金

昨日韓國皇帝陛下より十萬円、皇太子殿下より
五萬円、英親王殿下より三萬円を我恤兵部
に帝下賜相成る旨の伊沙法なり

平壤門外の砲声

今朝未平壤七星門外に於て砲声頻りなりとの
報あり

日露本使海兵の衝突

今朝九時平壤門外を距る七百メートルの處に
露國の斥候騎兵十五名現はれたるに依り數合
間に之を撃退したりとの報あり

露兵数百名平壤附近迫る

昨日平壤発電に接したるが露兵数百名當地を距る二里許の處まで来たりと今朝の衝突は多分此陽の斥候なるべし

露国領事其他の引揚

（釜山五九）

露国領事コザコーフ氏夫妻及び其他の露人は本日玉川丸にて一先づ門司に赴き長崎より帰国の者

陸兵衛突別報

（第城発）

而三日来平壤附近の敵の斥候兵三四十名出没し居りしが本日平壤北門と七星門との間に於て我兵と衝突し敵兵は撃退されたり平壤の我居留民は安然なり平日の如し

同上後報

平壤より達せる確報に據れば順安に一目下五十餘名の敵兵あり平壤の北一里なるカン北院に於ては昨夜三十名の敵兵露營したり今朝九時平壤七橋門外箕子陵附近七百米突の距離迄近きて我と砲火を交へたるは多分此兵なるべく彼我の衝突は極めて短時間にして彼は直に撃退せられたり又別報に據れば並峴に敵の騎兵十四五騎を認めたる由なるが多分此の撃退せられたる敵の一部なるべし又我に一人

平壌方面の情報

顧問雇用に関する照会

の損傷もなし

二月二十九日（京城発）

平壌よりの確報に據れば現北院順安附近にあり敵の騎兵八十名（昨日平壌にて我歩兵の為め撃退せられたる此の一部なり）昨夜安州方面に退却せり昨朝の衝突にて我は敵の馬二頭を斃したり

林公使は昨日外部に対して本邦及び外国人中責政府顧問に聘用せらるゝ者為め運動をしつゝと聞く顧問聘用の事たる慎重の注意を要せざるべからざるなれば之が任用の場合に於ては為め本公使に協議せられたしと照会せり

李根澤の奉命

其郷里春川に退隠せる者の李根澤は其実来門外に潜伏して形勢を観望し居たりしが昨日竊に入城して其弟李根藻の家に入れり

平壌方面の情報

平安北道寧辺の朝鮮電報局は義兵の為め占領せられ安州郡守は義兵の為に捕へられたりとの報韓廷に達せり

明治三年丁卯分

韓國電報集

議政李根冬の奏上一件

三月一日（京城発）

議政李根冬ハ謝て負債園の設置せる商務社ハ弊害多き故之を解散せべきを奏上して裁可を得たり又同人ハ先ニ李容翊ガ大官の身を以て外国ニ通ずるハ其罪赦し可からず厳重ニ處分すべき旨を奏上したるに昨今ハ右奏上を取消し李容翊の突然外国ニ行けるハ不都合なりと云へるも裁可を得て行きたるものなれば其罪を論ずるの限りニ非ざる旨を奏上したり

平壌以北の露兵

那尼本派の暴言

義州方面の情報に依れば義州平壌間に僅に
五百名許りの露兵從列に配置せられ居るのみ
なり又対岸九連城に露兵の隻影なく只安東
縣に大砲十四門を備へ歩騎砲兵二千名餘駐屯
し居るのみ敵は主として其有力を遼陽に集中
し得る模様なり

日韓議定書に對し中樞院副議長李裕寅參贊
権鍾奭等は韓国の主権及び利益を失ふものと
為し外部大臣署理李地鎔を賣国奴として攻撃
し頻に蟷螂の斧を振るつてゐる

露兵の北韓占領

露船韓人の偵察

露兵城基偵察

(元山発)
数日前ノウケスクにある露兵千五百名會寧に
来り郡衙を占領し帰化の韓人を使役して糧食
を徴發せり

咸鏡道吉州に露船来り日本の行動を偵察せる帰
化韓人の露国間諜なる者頻るなり

三月二日 (京城発)

ポセット湾に駐屯し居たる露兵の内三百名は
豆満江を越え雄基湾に来着せりとの報告地に

夜久里満仁ニ引揚

排日派の屏息

達したり

前電、雄基湾に来りたる夜兵三百名は其後豆満江の河口ロクトウに引揚げたりとの報あり

日韓議定書の件につき李裕寅等陛下の意に阿諛迎合せんとて頻りに李地鎬を攻撃し居たる所謂議定書締結なる李外部大臣の横断に出でしものに非ずして初め李外部大臣に之を議政府に諮り韓皇の允可を得て締結したる事漸く判明したるより李裕寅等一派の徒は今更の如く

仁川の変乱

頑迷派の有動

くも驚き頭に攻撃の鋒鋩を収り大に尾を巻き込みたる由

三月三日（仁川変）

仁川港は頗る寂寞となりたる由

（京城変）

吉琢泳等の徒は例の員稱商を指嗾し昨夜十二時を期して外部大臣署理李地鎬及び参事官具完喜等を襲撃せんとの密謀あるとの噂も探知せらるるにより我より力を添へて警戒

駐露韓公使引上

し居たるに今朝一時半頃完喜の宅に爆発弾を
投せしものあり中庭にて破裂したるも幸に一
人の死傷者を出さざりし李地鎮の宅にも何等
の危行を加へざりしも又我警察の手にて危行
の嫌疑者五名を今朝捕縛したりとぞ

三月二日（第壱拾弐）

露韓交際断絶の結果韓国外部より引揚の命を
傳へし駐露公使李範匡は仏国巴里に到着の旨
昨日韓廷に電報ありたり

安州人民騒擾

安州附近の人民は露兵の威迫に堪へずとて同
郡を出て昨日平壌に来りたり

上奏取消の運動

三月三日（第壱拾弐）

日韓議定書に反対の意見を上奏せし韓廷の群
小等は我意向を憚りて今朝更其奏議に批析し
自ら其上奏を取消さんとしつゝあり

美艦ポイニック

（釜山発）

美国軍艦ポイニックは昨日午後上海より入港今
朝元山へ向け解纜せり

至満江右岸の敵情

安東縣附近の防禦

（安東縣）

前震却セリト清ヨリ旅順湾ニ南下シタル敵ノ豫兵（チルチンスキー所属支兵カラン）ハ一部ハ又ノーキーウスクニカラ満江ヲ渡島近引上ケ満江ヲ溯リ穩城方面ニ向ヘリトノ報アリ多分奇襲運動ノ為メナラン

安東縣附近ノ敵砲台ハ目下益々盛ニ築造セラルヽアルヲ以テ

黄海道の撤去

米国兵派遣の照会

平壌以北の敵情

黄海道李載純氏ハ昨日病気ニテ退去セ享年五十三同氏ハ嘗テ久シク宮内大臣ノ職ニ在リ宣旨中ノ一勢力家ナリキ

米国公使ハ昨日外部ヘ對シ雲山金鑛ニ護衛兵トシテ同国兵六十名派遣ノ事ヲ照會セリ

今日迄ニ韓国境内ニ入リタル敵兵ノ總數ハ淡兵八百ト報ゼラル尚甚タ少ク今尚ホ定ナシ

去リ博川江ヲ渡リタル百餘以内ナリシモノヽ如シ等ハ漸次義州方面ニ退却シツヽアリシモノヽ如シ

義州ノ上流昌城ノ對岸ニ敵兵五百新ニ来集

鏡城沖合ノ砲聲

爆裂彈嫌疑者免訴

せり鴨綠江沿岸の敵に月下每束縣に二千九連城に二千ありて呂城より豆滿江に至る間に敵の影影を見ず

咸鏡北道咸城より電報に據れば一昨日甚沖合に於て激しき砲聲を聞けりとなれど未だ確ならず

前覆、爆裂彈事件に付き嫌疑者として捕縛せられたる五名の者は取調の結果、証據不充分にて何れも免訴放免となりたり

林公使の謁見

龍巖浦解放と日露公使

林公使は韓皇に最近我軍兵部に下賜金に付き其作禮の為明四日參内陛下に謁見を乞ふ答へ

林公使に昨日公文を以て義州解放に対する外部大臣の勞を多とし此際龍巖浦も亦解放せらるべきを確信し疑はざる旨照會せり英國公使も亦公文を外部に送り其趣旨は義州解放の事は贊明なりしも甚迅速にも指定せられざりしも龍巖浦の解放は如何になるべきやを問ふに從て鴨綠江解放の実を缺くの遺憾なき能はず速に政府の意を明示せられたしとのあり

浦塩発船

元山情報

り

三月四日（釜山発）

元山の来報に依れば浦塩の義船は鎮て黒色に塗り変へられ其乗組水兵は帰港後逃亡せしもの多し居り帰化韓人を雇ひ居れり

同地よりの情報に依れば千千ハンに支那人占領せりと説ける

義韓国境の警備頗る厳にしてポシエット雄基湾一帯の海岸には義兵充満し居る

漢城の不通

爆裂弾事件と林公使

斎陽大邱間の電線に故障ありて昨夜来不通となり今朝に開通せざ

（漢城発）

爆裂弾事件に付き林公使は昨日韓廷外部に向け責政府に安寧秩序を保持せる為め取締を厳重にせる事を警務使に訓令せべし若し警務使其職に堪へざるが如きことあらば其除官し速に元台に其責任を究明せらるべしと極めて強硬なる照会を発したり

安岡以南ニ就キ

雲山ニ派遣セラレタル
米国兵

親露派暴乱後報

義兵の戦ふ方面に背きしつゝあることは先電
のごとくなるが以今平壌よりの電報によれば安
岡以南にも今や義の一兵もなきことを確かに得
たり

昨電、米国公使より外部に照会したる雲山金鉱
派遣の同国兵に其数を五名に減じたるゆ

昨夜弘済院洪鎬台、参領金仁洙の家に爆裂
弾を投じたるものあり去れど一名の負傷者も
なかりき右洪は日韓議定書に調印せし廉を以
て李址鎔弾劾の上奏を為したるものにして又

上奏建議権の擴張

金仁洙ハ曩ニ露兵借聯の厚め厳順に赴きたる
ものの目下行方不明なり同夜兇行者李址鎔の偏
崖なる具完喜の宅に暴行を加へなから又反対
党なる是等両人の家にも兇行を加へたるは甚
しき市街に似たれど往年の爆裂事件に見る
ものゝ如陰謀の跡を晦ましんとする朝鮮人の憤
用手段と推察せらる

本日議政府会議に於て自今責任利任以上には
凡て国事に関し皇帝に上奏し得る権を與へ
ることを議決せり又中枢院には曾て責任利任の
経歴あるものに限り国事に関し中枢院に

閔逸公使の活動

隨意建議せるの権を許し居たり

久しく沈黙を守り居たる閔逸公使は昨日外部に向って本使は貴国艱難の際に當りて皇帝に謁見し以て天機を伺はんとせと称し外部大臣に謁見を請求せり又同公使は公文を送り数年来要求し居たる金鑛一箇所の採掘権を督促し外部大臣に此事に就き面議せんことを求めたり

三月五日（京城発）

露軍の防備と其候の退却

四隻の軍艦浦潮を

貴族院の激昂

露兵は安東縣に於て目下堡塁を造築し居るよしなるも博川、安州等に出没し居たる斥候兵は漸次博川江を渡り嘉山郡方面に退却し居れりと云ふ

近頃怪しき軍艦四隻元山城津間の海面に出没徘徊せる由右は露国軍艦にして突然砲撃を加へ或は兵士を上陸せしむる虞なきにあらざるとの虞を懷き同地方人民は大に驚きたる模様なりと

韓廷は曩に貴族院に対し移て下渡し置きたる

軍用民幣の流通

ピストルを一昨日引上げたるに付き同法は大に激昂し走清道に於て大会を催さんとて檄を全国に傳へたるも

三月四日（高城五）

我軍用民幣は平壌地方に於ては一般に都合よく流通し居るも郡守及び警理等の人民に対し引換の際は鉄を取りて半額位しかくれと渡さゞるに付き何れも自国官吏の横暴を恨みつゝありと云ふ

支那手形の下落

外人記者の述懐

安州順安等に於ける支那は手形にて軍需品を徴発せし由なるが該手形は近頃に至り大に下落し殆ど二分の一以上の價格を有せざることとなりたるを以て其手形を受取りたる韓国人民は何れも意外の損害を唱ち居れりと

平壌の外国人より當地に達したる報道に依れば同地方の人民は支那人を恐れるのみ餘り今回従軍の目的にて来りたる美米の新聞記者を我国人と誤認し不取扱を為したるを以て不便を蒙ることあらうもと之に反して日本人に対しては従来に比し一層親密を加へ居る模様なりと

我国負傷兵

病兵の送還

米病軍艦の入港

（仁川発）

臨時第十学社病院に収容せる我国の負傷兵は去月二十九日一名死亡し又本日午前十一時一名死去せり残りの者は不日弘濟丸にて日本に送るべしとの議なり

兵站病院に収容せる我兵士の重病者は遠からず弘濟丸にて送還せらるべしといふ

（ハバロフスク）

病送軍艦プリサ号米国軍艦ハレベア號は孰れも昨日入港したり

米国軍艦の城津行（別報）

米艦城津に向ふ

三月五日（元山発）

米国軍艦ヘニック號本日入港したるも何なく宣教師引上の為め城津に向へり

（京城発）

仁川に碇泊中なりし米国軍艦タルボット號（一方の元山来電には「ヘニック號」とあり）は城津に在留せる同国人民引上の為め昨日同地に向け出発せり

露国派の残党なる李学均吉永洙等は平壌鎮衛隊を指嗾して反対党即ち李地鎔等を倒さんと目下大に密謀を廻らしつゝあるも

数日来議政府及び各部大臣の任命交迭頻りなりしが現在議政府議員及び各部大臣は左の如し

議政李根澤、主座賛政沈相薫、賛政李夏榮
同権重健（権在衡の換名）、参賛張カンコ
ク、内部大臣閔泳喚、度支大臣朴定陽、外務大臣兼三部大臣兼憲兵司令官李地鎔、文部大臣尹雄烈、農商工部大臣閔泳韶、学部

大臣李答植、宮内大臣閔丙奭、中枢院議長金嘉鎮、同副議長李用素等なる者共ど此等の人々は到底永く其持続を能はざるべし

韓皇は昨日賛政沈相薫を東門外に待命中なる外部大臣李地鎔の許に遣はし辞表を呈せる事なく速に入城して政務を見るべき旨傳諭せしめらるゝ李は直に入城せり

農商工部大臣は勅命を奉じ十三道各地に於る貢献商の商務社を悉く解散せべき旨訓令を發

白耳義の鑛山業

注目すべき議政府会議

昨霞関迄公使ヲ金鎭一国所の採掘権を督促せし旨報せしが右は白耳義領事の誤りなり

外部ニ昨日議政府会議ニ左の諸件を提出す

一、京義鉄道の件

一、白耳義領事の要求に係る金鎭許否の件

一、日本軍用手形通用の件

一、爆裂弾事件の使嗾者吉永誅平壌親衛隊隊長崔洛用親衛大隊長李圭完及び李在和の四名を處罰せる事

一、漢城電気會社の損害を米国人に支払ふ事

一、日本人沈田商店の損害を支払ふ事

一、日韓議定書を官報に發表せる件

一、伊国公使の要求に係る金鎭許否の件

一、仏国公使の要求に係る金鎭許否の件

一、龍巖浦開放の件

宮内府顧問ヲリー米国人サンズ氏は其任を辞し帰国の途に就く者

サンズ顧問の辞職帰国

林公使謁見の模様

昨日午後三時半林公使は長森藤吉郎代及び部外交官補と同伴して参内謁見せり其際過日

美艦ハルゴット

露国の陰謀

韓皇より我帝陛下に金四寸贈りたるに対し
我皇室よりの謝意の御親電を傳へ次に日韓該
定書に関して以来障碍なく其実行を望む旨を
公使より奏上したるに韓皇は之を快諾せられ
又平壌以北に於る義兵の消息に付き種々御下
問ありたるやに伺へり 一時半に至り

美艦ハルゴットは城津在留の英人を引揚げし
むる為め去る四日仁川を發して同地に向へり

李学均・玄尚健の輩は尚員禄局と結託して今
日勢力ある該政府該員及び各部大臣に対し不

獨逸公使の謁見後聞

敵の前駆義城に入る

穏の挙動に及ばんとする模様なり韓廷は頗る
厳重に警戒を加へ居れり 吉永氏の所在不明な
るも尚陰然宮中及び員禄局の徒に勢力を有し
陰謀の張本人として目せらる

三月六日（京城発）

一昨夜義兵国斥候兵百名鏡城（咸鏡道慶興の南
方）に着せる旨同地より確報あり

去る四日獨逸公使の謁見は後に延期し
居りし黄原道堂峴の金鑛が其の成績面白ふう

爆裂弾騒動と外部

敵兵鏡城に到る

さらに更に他の適当なる鏡山に変更せんと奏上したるに過ぎざりき

爆裂弾騒動に付我公使より外部に致したる照会に対し外部は昨日本事件は事実に起りしを以て充分の警戒を加ふる能はざりしも今や責任使の旨を領して張本人吉永洙等を捕縛し相当の處分を行ふべしと答へ来れり

三月七日（第体技）

昨日城津発の電報に曰く

これが三隅江附近に於て

京義鉄道工事着手

彼我負傷兵の送還

こ敵国兵は漸次南進の模様なり甚七十名は既に鏡城に来着し居りと

曩に林公使より通告せし如く京義鉄道工事は愈々我手に於て着手せられたり

（仁川発）

我病兵八十一名は今朝十時又敵の負傷兵は午後三時就れも博愛丸に移乗して同船は明日出港せべし敵の負傷兵二十四名の内二名は死亡し十一名は殆ど全治せり

鎮南浦航路開通

仏艇入港

大谷技師長

京釜鉄道工事

鎮南浦航路は昨日より開通し和歌浦丸初航海を為せり

仏国砲艦ケンサーン號は昨日上海より入港せり

大谷京釜鉄道技師長本日来着せり

（京城発）

京釜鉄道工事長大屋橋平氏昨日入京明日釜山に向つて線路踏査の途に就くべし氏の談に前月初旬南北両端より取掛りし急速踏査は一先づ已に終りし目下精確の測量中なり橋梁は悉て木柱を用ひ隧道に着嶺其他二三の長距離のものを除く外開鑿工事大抵成り半分開通したる有嶺隧道は尚全部落近に八四百日を要せべくかも鑿岩器到着せば或は二百日位に縮め得べきと諸材料の到着さへ其時期を誤らざれば当初の計画通り本年中に成功の見込なり又倭館、美江間は軽便鉄道にて開通に合はせんとの議もあれど自分の考にては材料到着の遅延又は天災の為めに非常の妨害だに受けざれば軽便鉄道となるべき必要更に無く依然スタンダードゲージにて貫通せしむる積なり二月四日仁川に着したる鉄軌は直に敷設に着手し振威より

三哩程は既に敷設工事を終り尚日三千噸の鉄軌仁川に着し陸揚中なり目下工夫は全線を通じて三千人を使用し居れるが暖気の時節にならは更に増加せらるべし云々

勵精治を圖るの詔勅

三月八日

韓皇は又々例の勵精治を圖るの詔勅を発し議政府官制に多少の改革を施し宮内府の官制改革に就ては四名の調査委員を設けたり

爆裂彈事件関係者捕縛

彼の爆裂彈事件に関係せる負襁裔教名は昨日警務廳の手に捕はれたり

明憲太皇の葬儀

明憲太皇の葬儀は来十五日午前五時を以て執行せらるべし各国使臣は皇城の西門に於て見送る筈

龍巖浦開放の決定

龍巖浦開放の事は一昨夜の議政府会議に於て可決し皇帝の裁可を得たるを以て不日其旨を各国公使に向け聲明する筈なり

警務使交迭と負襁裔捕縛

韓廷警務廳に於て爆裂彈事件に付き崔文煥の告發により負襁裔三名を捕縛せしに同人等は

近頃首領吉永洙李鎬等が北岸の暴逆を被むりたるにより一二名の大臣を殺害して勢力を挽回せん事を企だてしものなる事を自白したり然るに韓廷に於ては是等負傷者に対し断然たる所置を施さずして安駟寿を殺せし者に其人に日本及対派にして安駟寿を殺せし者に其人に逃さるを以て本月十五日明憲太后の葬儀を終りたる後警務使の交迭を行ひ是等負傷者の徒を一網に網羅掃蕩せる方針なりと

昨日午後鎮城港の電報によれば去る四日に来着せる後備兵六十三名通韓一名は日本人の有無を取調べたる上翌五日出発し更に富寧茂山方面の偵察に赴けり

（平壌発）

宣川以南に義兵なし大同江の結氷は十二日頃解氷せるを見込にて鎮南浦に既に汽船和歌浦乙初航海として入港せり

（京城発）

林公使は外部に対し日韓撰定書を韓国官報に掲出せるの一事は本公使先に謁見の際皇帝の勅允を得たるに係はらず今に其の発表を見ず

胡乱なる韓人

虞ら二貴国駐在の各国領事及び貴国地方官中未だ誠実書成立を知らざるもの多し此八両国の友誼に反し且つ行動を妨ぐるを少からず速やに改悔せられたしと照会せり

三月九日（承徳発）

権謀術策の間に出る関泳璇、李鳳来の二名は金談の用向を帯び上海なる関泳翊の許に行くと称し一昨日突然当地を出発せしが其行動の極めて怪むべきものあるより仁川にて差押へられ当地に引戻されたり彼等二名は駐韓公使た

北韓一帯の敵情

りしパブロフの周上海に在るを以て之に面会し何事か密議せん目的にてありしものと如し

北韓に於ける敵兵の主力は依然定州に安州を退却したる敵の騎兵九之に按下又義州よりル若干の兵と増派し彼此合せれば目下定州に八騎兵千二三百砲兵一箇中隊砲八門あり彼等八馬糧を得るに定州より数里を隔つる嘉城赤川附近に二百頭の飢たる馬を牽あて彷徨たるを目撃したるものあり

鏡城に来りし敵の斥候騎兵六十八退却せり

日韓議定書発表

日韓議定書結果

豆満江の上流會寧郡に千数百名の敵兵あり鏡城に南下せるなりとの説もあれども未だ確かならず但し茂山附近にては若干の敵兵ありて頻りに糧食を徴發しつゝあり

三月十日（京城發）

韓廷は漸く本日の宮殿號外を以て日韓議定書を發表したり

従来露国が韓廷を脅迫して獲得したる各種の協約殊に彼の巨済島不割譲月尾島炭坑採掘鬱陵島豆満江及び鴨緑江沿岸の森林採伐等に関する各條約は日韓議定書の成立に因りて無論消滅に帰すべきものなれども尚ほ韓廷が前記の各條約が將来に於て無効なる旨を宣言し以て日韓條約の効力を列国に表示せるなりとの説あり

鬼の眼にも涙の類

露国政府は白国の負傷兵が仁川の我が赤十字病院に於て非常の好意を以て懇切なる治療を受けたるに対し感謝の意を表せん爲め當地駐在仏国領事の手を経て同文部委員長なる三潴領事に対し金二千円を赤十字社に寄附せん事

山根参謀長の視察

軍用手形の引換價格

豆満江沿岸の日本人

と申出でたり依つて同領事は此事を日本第十
字社本部に照会せり
林公使は鉄道徳益山根少将及び国分書記官を
帯同し本日午後三時参内視察せり
韓廷は昨日十三道の各地方官に指令して曰く
日本軍用手形は以来妨げなく通用せしむべく
其引換價格は一円に対し金貨八十九戔と云云
々但し此は廣地第一銀行にて引換る相場なり
豆満江沿岸の煙秋に於て我漁民五十名露国官

浦塩砲撃後報

美艦セニヨク

吏に保護せられ浦塩に引揚げたりとの報を得
たるも未だ確かならず

（元山発）

城津より美国宣教師を乗せ昨日入港したる美
国軍艦セニヨクは本日上海へ向け解纜せり
我が艦隊は根據地を出で大風波を冒し六日午
後一時三十分浦塩斯德に着し直ち二時三十分
より敵艦及び港上を砲撃せり港外に在りし敵
艦は我が艦隊の来るを見て港内に引込み少し
も應戦せず

安州以北の衝突

京城鉄道と日韓協同

七日我が艦隊は敵艦の出づるを待ちしも遂に出で来らず敵艦及び陸上は損害ありたる模様なり

寒気非常に強く我が艦上皆氷結せり我が艦員皆無事なり

（京城発）

安州以北に於ては屢〻衝突起りたる模様なれども未だ詳細の報知に接せず

我公使より昨日外部に対し我国は既に京釜鉄道工事に着手せるが京城開城間は既に韓廷に

仁川の国債應募額

ウリヤーグ引揚準備

て工事を開始し居たるしかなれば西北鉄道局管督李允榮をして我教設事務に干與せしめ以て工事の進行を計らんと懇願せり

（仁川発）

當港国債應募額は總計二萬九千一百五十円にて引受價格最低九十五円最高一百円なり

新井少將以下將校四名技手其他百二十六名山来丸にて沈没軍艦引揚の為め来港せり

（平壌発）

平壌北面斥候衝突

京義鉄道に関する勅諭

李容翊の暗動

八日午後平壌北面の某地點に達せる我少數の驍兵斥候へ近く前方に現れたる敵の驍兵三十名と衝突し奮闘の後敵を退け無事引揚げ其任務を全うせり

三月十一日（京城發）

昨日林公使及び山根少將の參内謁見の際韓皇へ京義鉄道に付ては以後及ぶ限りの便宜を與へべしと勅諭せられたる由

李容翊が曩に當地に於て編に日韓議定書の調印に反対し妨害運動をなしたるは厳かべからざる事実なるが彼は日本に在りても尚日韓に駐日韓理公使を脅迫し何事も我に不利益なる報告を韓皇に為さしめつゝありとの噂高し

韓延大臣の一部交迭

伊藤大使迎接準備

韓延大臣の一部の交迭

韓延大臣の一部交迭し金嘉鎮は農工商部大臣に閔泳煥は學部大臣に李道宰は内部大臣に任ぜらるゝ筈なりしが日本より忠告せしものゝ如く韓延自ら我意向に投ずる為の断行したるものゝ由

韓延は伊藤侯来着の上はソンタク嬢の邸を以

国債応募

て大使館に充んとして寄り準備中

當地我居留民の軍事公債應募額は二萬五千三百五十円なり

偵察隊偵察別報

平壌より當地に達したる別報に依れば去八日定州と嘉山の間に於て我偵察騎兵は敵の斥候騎兵四十と衝突し互に銃火を交へたる由昨日の平壌電報と少しく相違の態あるも取敢ず報じ置く

（仁川発）

倉庫の焼夷

當地兵站監部は本日韓人の倉庫の一部分約七千坪を焼夷せり

敵の死体とワリーヤーグ

最近の死体二箇所日浮上るワリヤーグの引揚は困難ならざる見込なり

軍用手形と雑貨

（京城発）

韓廷外部は我軍用手形一元に付き八九銭の割引を以て換収し妨なく通用せべき旨を全国に訓令せり

逆徒の放免

韓廷手理院に於ては種々の逆罪にて拘囚せら

林公使の忠告

れ居る者多きに依り至急之を取調べ不日放免
せらるゝ筈なりと

三月十二日（京城発）

韓廷が近頃頻りに官制を改革し大臣の更迭一
層頻繁なるに付き林公使は昨日外部に向け官
制を改革せるも其実を挙げさるべ法法空文に
属し又頻りに大臣の更迭を行ふは其成効を責
むる所以に非ざるを以て一篇の忠告的公文を送
りたり

人使接待委員長

親長派の策動

新井少将一行

今回伊藤侯大使として来韓せらるゝに付き韓
廷は学部大臣閔泳煥氏を接待委員長に任命し
たり

李学均、玄尚健の二名は百計尽きて身を置く
に所なきを以て遂に米国公使に逃げ込み同国に
逃れんと計り居りたり

三月十一日（仁川発）

新井少将の一行は将校四名技師以下百二十六
名にして何れも山夫丸にて目下沈没貨船

鎮南浦の近況

引上に付き調査中なり

鎮南浦初航をなしたる和歌浦丸本日帰着の旨
所報によれば大同江は流氷なれども航行差閊
なく鎮南浦は俄うに食料其他に欠乏を告げ居
りたり

国債應募高は總計二萬九千六百円と決定せり

米艦坂鉛

三月十二日（仁川発）

米国軍艦シンシナチー號は本日午後鎮南浦に
向て坂鉛したり

国債應募高

（釜山発）

當地の国庫債券應募高は九萬五千五十四に上
りたり

露兵の浦汐集中

三月十三日（元山発）

最近の情報に依れば雄基湾、鏡城、海参崴に在
りし露兵は漸次露領に引揚げ浦汐に集中せる
の模様なりと云ふ

外部大臣交迭

廢立陰謀事件裁判

（東城発）

外部大臣署理李址鎔氏は昨夜以来其職を解す

仍趙秉式氏署理大臣を命ぜらる是は伊藤侯来

韓に対し皇帝陛下の思召にて特に元勲たる趙

氏を挙げたるものなりと聞く

一昨年来皇帝の廢立を謀らんとて陰謀を企て

発覚して獄裡に繋がれたる趙高翊外十名の

武官に係る疑獄事件は去十一日を以て裁判済

結し軍理院長より法部大臣を経て被告八名に

対し死刑を奏請し裁可を得たるに対し右の内

巨魁三名の死刑のみ裁可せられ其他の者は特

旨を以て流終身に處せらる、被告等は孰れも

曾て我陸軍士官学校に入学し帰国後武官の職

に在りし者にて陰謀の事実は日本に在る亡命

者兪吉濬等と結託して他の血判書を造りしの

なり

一、国君を弑する事

二、皇太子を廢する事

三、義和君を王位に擁立する事

四、亡命者を以て内閣を組織する事

五、此の盟約に違犯し若くは之を漏らせし者は

白刃を以て相贈る事

而して此血判書の冒頭には国君侵を失ひて奸

咸鏡道北部の敵情

匡樞を弄し国家を見ること私有物の如く臣民
亦草芥視せらるる五百年の宗祀と二千萬の同胞
は傾覆危急に際せる等らく危急なる文字なり
尚右に署名せるもの十五名なりし其内逃亡
せしものあり即ち才判と愛甲一役者の数は八
名なり

（元山発）
最近の敵情に據れば雄基湾境城會寧等なり
し敵兵は漸次露領に引揚げ浦港に集中の模様
なりされど少オキエフスクには依然若干の
敵兵駐屯しつゝあり

西韓の敵情

三月十四日（平壌発）
露国に関する情勢は日々変化して底止なな
と長ル義州 咸鏡の地に三千以内の歩騎
兵あり 慶城、茂山、恵川、定州に稍有力なる騎兵あ
りて其仆候と嘉山、博川、寧辺附近に出没し
鴨緑江には韓船あり成鏡の敵の軍艦あり安東
縣には新なる数個の砲墨を見るといへり江口は
確なるか如し

京義鉄道工事

京義鉄道工事は京城西大門を距る凡そ七十里

故明憲大伯の葬儀

米則ち秋十七里半なる開城の少し北近既
に測量を終りたり工事は数ヶ所より着手せられ
之に従事せるものは彼此一万五千人以上を要
せべしとつふ

故明憲大伯の柩は今朝五時慶雲宮の北門なる
永静門より出で今夜東大門を距る約三里の楊
州なる先皇哲宗の陵に埋葬の筈韓皇及び皇太
子は同時刻麻の喪服にて永静門内に設けられ
たる天幕内の玉座に出御御見送り各国使臣
等も同門にて柩を見送りたり韓皇は其席に
て謁見を賜はり特に我林公使に対しては出棺

墨国外部大臣任命事情

に先ち謁見を賜はりたる林公使は我皇室より
の御悔の汗親書を捧呈せり

趙秉式氏の外部大臣署理に任命せられたるは
外部大臣李址鎔氏が故明憲大伯の陵を監督せ
る為め四五日間不在となるが故にして伊藤大
使接待の為めといふにはあらざる由

韓廷の或筋に達せし電報によれば敵の騎兵二
百餘騎一昨日又ルヤ定州より嘉山附近まで南
下したる模様なり又定州の敵情は依然たる由

平壌奇兵の敵情

戦死諸兵の葬儀

新聞記者の退去

（仁川発）

義艇ワリヤーグの戦死水兵の死体は今日我海軍送葬令に与り各国共同墓地に埋葬せらるゝたり死体は砲車に乗せ十名の砲手之を曳き我水兵のみ隊伍となり米佛伊の各国他軍隊及び我加藤領事其他居留外人會葬し一時三十分埋葬を了ぬ

三月十五日（平壌発）

当地に在る新聞記者は悉く退去を命ぜらる

仁川

傷軍艦の去来

清水書記生の帰都

本願寺慰問使

夜軍艦迂回

（仁川発）

傷兵軍艦ブツサルド今朝膠州湾に向かう又先頃鎮南浦に赴きたる米艦シンシナチ帰港したるが同艦は雲山引揚の米人を乗せ居れり

（馬山浦発）

清水書記生鎮南浦に轉勤せり

本願寺慰問使一行は釜山に向へり

（京城発）

平壌北面巡察使白性基氏一昨日捕縛の報

第一銀行平壌出張所

韓廷の勲章贈與

若に依れば義兵軍隊は本官に對し開戰中韓國に宜しく嚴正中立を守るべし故に我が貴官に於ては本軍に糧食馬糧等を供給せざる敵軍と見做し砲撃すべき旨照会し來りたりと

平壌に於ける我第一銀行の出張所は昨日より業務を開始し軍用紙票の交換に着手したり

韓廷より昨日林公使に勲一等大旭章を贈り來り尚ほ爾餘の公使館員にも追て勲章を贈與したるよし

新聞記者の逸出

今回大本營より從軍の許可なき新聞雜誌記者は京城仁川以北には進むを得ざるものとなれり

笠井技師とたき市穂哉

（釜山發）

笠井技師本日來着す古市穂哉は來る十九日当地に來る筈なり

浦汐残留の邦人

（元山發）

浦汐には本邦人百四五十名殘り居り露國政府の保護を受けつゝあり

邦人敵に捕らる

義兵は此程露軍と附近にて日本人三名を捕へ

比韓國境の警戒

鏡城觀察使の陳述

漢夫なる者別明せしなり故免せしの通訳
として同行せしに日本人一名捕へられて行方知
れず

義團は國境の警戒を嚴にし韓人と雖も義團境
内に入ることを禁じ居れり

鏡城觀察使は先頃義兵の來りし際牛鶏卵等を
送りて哀を請へり

三月十六日（京城發）

林公使の謁見

日韓協約祝宴

親夜派上海行

林公使は本日午後三時韓皇に謁見し參内謁見
の答

外部にては本日午後七時より日韓議定書成立
祝宴會を開き林公使其他要人を招待せ

（仁川發）

義團党と目せらるる玄尚健李學均の二名は今
朝二番汽車にて下仁し電気會社の米人ホスト
イックと共に未明シンシナチに乘り出発
に向へり多分同地より上海に到り義公使パブ
ロフに會面し漢城目下の模様を告ぐる為めな

米国艦隊来る

韓境以南敵兵なし

伊藤侯の接待

うんとう

是果たして米国艦隊近々入港の疑ありしに
ソナチネの是果に行きては其水先案内の為
なりしとか

元山港

浦汐港より昨日帰りし韓人の談に国境以南に
露兵見えずと云ふ

京城発

明日当地に着すべき伊藤侯接待委員は宗都大
臣閔泳煥 外部協辰 伊敦具 鉄道院総督長映

韓皇と和勲

運 経営洗濯総督権昌植 議政府賛政権重健の
五名にして閔泳煥は本日既に下仁せり宮内大
臣閔丙奭は明日下仁林公使伊地知少将以下我
が文武高等官に仁川に大使の一行を出迎へ
べし

韓皇は本日我文武高官に左の如く勲章を贈
典の所次左の如し

大極章勲二等 伊地知少将 萩原書記官

大極章勲三等 野津陸軍少佐 吉田海軍少佐

李花章勲三等 和田軍医総監 三浦領事

大極章勲四等 塩川書記官

勢威偵察の

其他岡部古谷出渕藤岡井上市岡藤波等の文武官に亦同様夫々勲章印賜然の所決なり

昨夜開地に達したる確報に據れば定遠の義兵千六百騎は砲六門を以て定遠を南に距る六七里なる苗辰まで来り其前進隊二百騎は更に進んで清川江の對岸に在り昨日午前其一部五十騎は對岸二百米突の所に現はれ我に向て戰を挑みたるも我は應せず因に定遠にたりし義兵の所屬に就ては是迄不明なりしも聞く所に據れば淀来鳳凰城に在りしチチンスキー哥薩克第六隊隊の五個中隊（七百五十二）後貝加爾哥薩克新式兵第一中隊（百五十名砲六門）及び長春にたりしグンスキー騎兵隊六個中隊（九百名）なるべしと云へり

韓廷後兵幹事の決議

義兵の義兵数は一切不明にして江界に義兵なりし又慈城に在る義兵は既に昌城に往来せりのみ

韓廷元帥府にては義兵に在る義国兵を打掃はん為め平壌鎮衛兵二千名を派遣すべしと決議せり

三月十七日（亦晴）

伊藤大使の入韓

伊藤大使は務て韓皇陛下の居り給へる宮殿列車にて仁川より本日午後五時西大門外なる停車場に到着し此處にて宮殿より差廻されたる六人乗の輿にて一行は大使館に入り仁川出張所に居る宮内大臣以下韓廷の各大臣及び林公使を始め各之部員も同列車にて帰来せり停車場より西大門を経て大使館に至る数町の道筋及び大使館は我兵にて警護し停車場には朝鮮兵整列し居り又伊藤が停車場に着した時は朝鮮兵の喇叭隊喇叭を奏し日韓人の見物に出懸たる者頗る多し

渡来商人の失敗

下関門司より仁川に行く船に乗り込むものの昨今非常に多く毎船満員にて乗り込むことを得ざる者も亦少なからざる有様なり然るに仁川には一時欠乏せし貨物も既に夫々供給されたる事なれば思惑を抱きて渡来したる商人は大抵失敗を免れざる中には関税を払い得ずして貨物を税関に差押へらるるものもあり始末に窮して到着の翌日直に帰国の途に就くものもあり悲惨の状表れ可く内地人の大に注意すべき所なるべし

咸鏡道慶興方面の状報に依れば露兵は豆満江の警戒を厳重にし韓国人民を渡し同江を渡りて露領に入り込む事は堅く禁じ居るよし而して露兵は同国に帰化せる韓人を使役して咸鏡北道に於ける日本人の状況を偵察し居る由

（仁川発）

伊藤大使一行は本日午前十一時假装巡洋艦秦滝丸にて到着したり林公使、萩原書記官、伊知地大将、加藤領事等は出て本船に迎ひ後は午後一時四十分上陸し領事館に少憩の後三時五十分發の特別列車にて入京したり韓廷より出迎の為め下仁したる宮内大臣閔泳煥を始め其他大官二十餘名にして居留地より大石兵站監各将校、磯治軍艦各将校、領事館員、民役所員、各銀行會社員、居留民會、商業議會所議員、小学校生徒数百名にて上陸の際は韓国砲台と大嶋艦より各十九發の礼砲を發したり而して南港出発入京の際は見送人停車場に參集し途上は護兵警衛し送迎感ずるまで

三月十八日（京城発）

伊藤大使は本日午後三時随行員一同を随へ慶

平壌前面の敵情

運宮に参内し韓皇陛下に謁見し我宮廷よりの
御親書及び御土産物を捧呈の筈又明日伊藤大
使は大使館にて韓廷各大臣及び各国公使
の訪問を受け之に接見せべし

昨夜寧辺観察使より外部に達したる電報によ
れば義兵三千麻山郡に来り内二千名雲興社を
経て博川に来着し又定州に駐屯せる三千の義
兵は頻りに馬糧等の軍需品を徴発し如何に處
置すべきやと右兵数は勿論誇大に失し確
うならざるも過日来定州に在りたる敵兵の後
援隊として多少南下せしものゝ如し疑なき

軍部顧問決定

韓兵の逃亡

ものゝ如し

過半我公使附武官より韓国駐劄員に嘱託し
る野津陸軍中佐を韓廷軍部顧問に傭聘せるの
件は前日来交渉中なりしが愈々月俸五百円官
舎料百円期限五年の事に決定し近日契約書に
調印の筈

韓国元帥府は義州の義兵を去掃ひん為め過日
平壌兵派遣の決議を為したるが軍資欠乏の故
を以て未だ出発し能はざるも早く既に戦争を
恐れて逃亡せし兵昨日迄に四百人に及べりと

又々敵の威嚇

三月十九日（元山発）

ノーウオキエフセク（ポセット湾の陸上）にある我国司令官は韓国各艦使に書を送り中立を守らざれば兵を挙げて罪を問ふべしと威嚇せり

韓廷の狼狽

（京城発）

韓廷に於て八明晩伊藤大使及び随行員の重なる人々及び林公使、伊地知少将、敬厚書記官等を招待して饗宴を開き明後晩は外部に於て

伊藤大使と韓廷

大使一行及び我駐劄高等文武官を招待し盛なる祝宴を催はせ給へり

伊藤大使昨日午後三時随員一同を従へ宮廷より特に差廻されたる轎に乗り我儀仗兵及び韓国儀仗兵を随へ大安門より慶運宮に入り乾清殿に於て韓皇陛下及び皇太子に謁見し此を三十分にて退出したり夫より外部大臣を外部に訪問し多刻大使館に帰れり

大使の滞在八日を一週間の豫定にて尚韓皇よりの招請に依り今後数回の謁見あるべし

今回我皇室より韓国宮廷に贈呈の品物は著

麗なる銀製の花瓶及び金差煙の箱等なるやに
傳へ聞ける
本日大使八年前十一時より韓廷各大臣及び各
使臣の訪問を受け之に接見せる事既電のが
韓国宮廷より八多分皇族及び順安君李載完を
今夕大使館に派し伊藤大使に對し敬意を表せ
しむる事となるべし尚韓皇より伊藤大使に對
し金尺大授章を贈らるべき内勅を表勲院に下
されたり
韓廷より一日韓議定書の調印に尽力せし皇族
李地答を大使として日本に派遣し我大使の派
遣に答礼せしめべしとの議ありしなるも未だ

決定に至らず韓廷は昨今伊藤大使の接待に忙
はしく政治向は休止の状態なり
韓皇陛下八伊藤大使参内の答礼として親しく
大使館に臨御ありべき筈なるも目下恰も明憲
太后の喪中にあらせらるを以て皇族順安君
李載完を御名代として本日大使館に派遣せら
る
三月二十日（京城発）
韓廷宮内府所属の人参一手販賣権は我三井物
産会社に於て獲得したる所にして尚ほ昨

伊藤大使参内

明日以後の夜会

年々向ふ五ヶ年の契約を締結し居たる拘けらず此程宮内府の或者佛人ロントン商会に対し三井に対するとと同一の契約を与へたるに林公使は一昨日外部に公文を送つて貴部より三井物産会社に対し契約履行に妨げなき様宮内府に注意せうるべしと照会したり

伊藤大使は本日午後三時参内皇帝陛下に内謁見をなす

明二十一日林公使の主催にて公使館に於て伊藤大使一行及び各国公使を招待して夜会を開く

日本語学生の増加

く答なり尚ほ明後二十二日は韓廷外部の夜会二十三日は伊藤大使の主催にて韓国各大官の為の夜会を開き二十四日は林公使の主催にて大使館に於て大夜会を開く筈にて其招待賓客の總数は一百五十餘名の像定なりと

韓国官立の各外国語学校に於ける入学者の比較は例年日本語学校は第二位若しくは第三位にありしが本年は一昨日学部に於て生徒の募集を為したるに其應募者日語三十名英語二十名漢語三名佛語三名伯語一名露語十名の如き結果を現はせり以て韓国に於ける列国勢力の

北韓情報

一班を下るに足るべし

（元山発）

露兵ハ絶えず鐘城附近ニ偵察し居り

伊藤大使謁見事情

三月二十一日（京城発）

伊藤大使昨日内謁見を賜りたるに韓国皇帝陛下ハ大使に対し卿ハ吾隣邦の元勲にして久しく政治に参与し輔弼の任を尽し来れば朕ガ為

めにし辱遠相倚るの義を思ひ克今助力を共へられたりと仰せられたるに大使らは日露交戦の今日に際し韓国に於て急激なる改革を為すは好まざる所なり殊に軍備擴張の如きは策の得たるものにあらざるに就き須らく先づ国民教育に力を致し漸次改良進歩を図らるる可し尚ほ日韓両国の交際は益々敦朴を加へ以て東洋の平和を保持す可き旨を奏上したるに韓皇には殊の外満足に思召され安堵信頼の念を増させられたるものの如く時日の許す限り大使の逗留の長からんことを望ませらるる旨沙汰ありしと事の眞偽は保し難きも各韓人側

伊藤大使の謁見

に於て傳ふる所なり

昨日伊藤大使の謁見は午後三時より約一時間半に亘り内謁見の事なれば其模様は勿論詳らかにする能はざるも韓皇らは暫時大使の滞在を望む旨の勅諭ありたるに聞く尚其際韓皇には大使始め一行の人々に左の勲章を贈られたり

侯爵　伊藤博文

金尺大授章

大極一等勲章　　都筑馨六

大極二等勲章　　宇佐川一正

同　　阪本俊篤

暴徒撃退せらる

同
八卦二等勲章　東園基愛
大極四等勲章　国府象次郎
同　阪谷重次郎
　　古谷久綱

元山よりの電報に依れば昨夜咸鏡北道咸興に於て暴徒三百名蜂起したるも打掛けの死者三名負傷者二十名捕虜三十六名を出したるを打払ひたる方には僅に一名の負傷者ありたるのみなりと

釜山発

日本領事逃亡
金

米艦軍艦の去来

咸鏡道の暴徒

釜山同志會は本日幣原、有吉両領事の居る迎賓館を開けり

（仁川発）
十九日米艦シンシナチ本日出港上海に向へり米国艦隊の勇ましく近日入港をへ〜艦船ブッサーは二十一日朝湾内入港せり

（元山発）
一昨十九日午後四時末摩虎三百咸興に集合し
フーちゃとの急報当地の我が守備隊に達せし

鬱陵島民の来府

ら我守備隊ハ昨日夜半當地を発し勦討に向
ひしに果して不逞の徒の蜂起せるを認め直ち
之を討ち午後二時半全く鎮定せり匪徒の死者
五名負傷二十名捕虜三十六にして捕虜の内巨
魁二名を残し他ハ放還せり我兵負傷一名右大
隊貫通銃創なり暴徒の目的ハ現皇帝を廣し且
つ日本軍隊及び宣教師に危害を加へんとせる
にありと揚言せられ居れり

三月二十二日（釜山発）

鬱陵島在留の日本人三百名の内代五名ハ日夜

龍巖浦開放

咸鏡道暴徒後報

戦争の模様を聞うん為め風説を肩し来着せり

（京城発）

幾度の議政府会議に上りて決定せざりし龍巖
浦開放問題ハ昨日又也や同会議に付せられ漸
くのをにて可決されたり幸ハば韓廷ハ各国に
向つて其開放を言明せんとせり

昨電韓国の暴民ハ其巨魁二名を捕へ来て其他
ハ放免し全く鎮撫に帰せりとの電報元山より
當地に達せり

軍部顧問聘傭
契約

我公使館附武官野津鎮武氏と韓廷軍部顧問に
聘傭せるの件ハ豫て彼我の間に交渉せられた
る所なるが昨日愈々議政府会議に於て左の合
同契約を締結せられ直ちに韓皇に奏上し
て御裁可を得たり其條項の大要ハ左の如し
一、日本政府の承認を経て軍部顧問に聘傭せ
る事
二、顧問ハ軍事上の諮詢に應じ且つ意見を提
出せる事を得
三、高等の禮遇を與へる事
四、月俸五百円を給せる事
五、舍宅を支給せざる場合にハ家賃家具代と
して百円を支給せる事
六、契約期限を五ヶ年とせ

古市恩裁と矛一郎の見

咸鏡道暴徒鎮定情報

三月二十二日（金山度）

今朝入港の信濃川丸にて古市公威氏及び第一
銀行の尾高次郎氏着せり

（元山度）

咸鏡の暴徒勦討の為め二十日午前元山を出発
せる奥田大尉の一隊ハ海路より西湖に着せし
ハ同十時四十分なり夫れより咸興迄ハ陸路約

四里にて午後五時センウウに着したり其時迄
同地に在る森田大尉ハ何等の警報にも接せざ
りしが午後十一時半に至り暴徒数ヶ所に集
我を襲ふ模様なりしとの報を得たるハ我ハ二隊
となりて直に之を迎撃せしに敵ハ機先を制せ
られて食糧根据多くハ遁走し午前二時半全く
鎮定せり暴徒の武器ハ大砲銃剣銃等に過ぎず
暴徒の盟約連名書及び軍旗一旒ハ其場にて直
に押収せり又捕虜となせし巨魁ハ有名なる稷白
等尹魚典の二名にして我兵の負傷者ハ阪本喜
太郎氏一名なり

伊藤大使と饗應

龍巖浦開放内議

有志韓人の軍資寄贈

（京城発）

伊藤大使ハ本日米国公使館にて午餐の饗應を
受け明日ハ英国公使館にて午餐の饗應を受く
る筈

龍巖浦開放問題ハ愈議政府会議を通過したり
ハ其聲明を見る一両日中にならん

當地韓人の有志家中同志義捐社なるものを設
け軍事資金を募集し目下清韓両国の楷立の為
め戦ひつゝある日本軍に對して満腹の同情を
寄せ感謝の意を表し其募集金額を日本軍事費

清国公使の照会

中へ寄贈せんとする旨の証意書を配布せり

清国公使ハ本国政府よりの訓令によりて久しく清韓両国の争議となり居る豆満江上流カントウの領土権を協定せん事を公文を以て韓廷外部に照会せり

外部の応答と伊藤大使

昨夜外部の応答として伊藤大使ハ主人側の懇望に依り一場の卓上演説を為せし由なるも其趣旨ハ韓廷の為に急劇なる改革を為すの不可なるを説き政権争奪の際に及び最後に上下和衷協同し誠心誠意国運の進歩を謀るべきを以て

幣原領事の帰朝

咸興暴徒討伐

せり

（釜山発）

幣原領事本日統後九時にて帰朝の途に就けり

咸興の暴徒を平定したる一隊ハ敵の四箇所に集会せるを探知し先発の一隊と共に其三箇に対し襲撃を試み敵ハ之に対抗したるも二十一日午前二時全く之を撃退せり其戦利品ハ連発銃　大捷銃　ピストル　刀鎗等なり又負傷者ハ喇叭手にして右足貫通銃傷なりと云ふ

鴨緑江附近の義兵

義兵邦人を捕ふ

（京城發）

義州郡守より我脚を以て平壤に報じ同地より本日韓延に達したる電報に依れば二月二十日より三月十五日迄安東縣より鴨緑江を渡りたる義兵の總數は四千五百名にして其内一千名は楚山方面に進み三千名は義州に駐屯せるが内五百名は平壤方面に向つて南下し一千名は大砲と共に安東縣に引返したり

（元山發）

義兵雄津に於て日本人三人を捕へ韓人之を竈の内に隠せしも密告者ありて發覺せり邦人は福岡縣の井上梅吉廣島縣の竹内某鹿兒島縣の中村仁之助にして皆船水業者なり

龍巖浦開放の声明

韓皇恩賜

三月二十四日（京城發）

韓廷は本日午後五時各國公使に對し龍巖浦の開放を聲明せり

曩に韓皇帝より我陸軍將校以下に対し其他物品の恩賜ありしが今回又我海軍司令長官以下將校兵卒に對し左の物品を下賜せらるたり

シヤンパン　二十打　葉巻煙草　五十函

紙巻煙草　五十丞　天狗印巻煙草三百丞
別種紙巻煙草三高丞　日本酒　三十樽
牛　五十頭

大使館の饗宴

伊藤侯は昨日韓廷各大官二十餘名を大使館に招待して宴を張り同夜は伊藤侯の卓上演説あり其内に有司職責を重んぜざれば特に職責外の事を局外の弊害に付き述べる處あり大に韓廷大官を警醒せる處あり由

朝鮮南岸漁業権

林公使は外部に對し黄海平安忠清三道沿岸の漁業権を前例に準じ許可せん事を請求せり

伊藤大使の贈物

三月二十五日（京城発）

伊藤大使は昨日韓国各大官に対し鄭重なる土産物を贈りたるよし

（元山発）

ヤンチカ守備の露兵は甚敷少なく多くは韓国

露兵の守備少

屋歩兵なり

（釜山発）

古市京釜鉄道

古市京釜鉄道偵察は本日仁川に向け出発せり

軍部顧問傅聘契約調印

朴齋純氏

咸鏡道巡査派遣

（京城発）

野津中佐傅聘契約ハ只今（午後六時四分）調印せられたり

駐清韓国公使閔泳喆より韓廷への来電に新任外部大臣朴齋純ハ二十三日芝罘を発し帰途に付きたりと今明日中に帰着せべし

三月二十四日（元山発）

観察使に引渡したる咸鏡暴徒の巨魁二名ハ昨日銃殺せられたり

三月二十五日（京城発）

咸鏡北道鍾城より韓廷への来電に露兵温城に五百慶興に四百鍾城に五百来り進て南下の模様なり又豆満江上流沿岸各部に無数の露兵来り糧食馬糧を強制し人民を殺し居りに兆亡たるもの多く人家空虚なり如何に處置せべきやとなり

豆満江沿岸の情況

三月二十六日（元山発）

浦汐情報

日探婦疑者の死刑

浦塩より城津に帰る人の談に浦汐にある日本人ハ二十五名にて多くハ婦人なり日々黒ハンニ比死傷へらるるスノーキーイウフスクに在る守備兵ハ少く且つ韓人多し去六日浦塩砲撃に死者（此間一字不明）營舎破壊せらるる

東方亜細亜通商会社の露人ストレンニーは近頃日本政府の間諜なりとして奉天府に送られ死刑に處せられ其前泊せし家の支配人ハ退去を命ぜられたり

大使館の夜会

（東城発）

昨夜ハ林公使の催しにて伊藤大使の為めに九時より夜会を大使館に開きたり来賓ハ重立ち各地外交社会の外国人より成り各国公使領事以下其館員一同及び其夫人令嬢並に各国武官等にして仁川より也各国領事其他外国人多く来会し外国新聞記者にてハ倫敦メイルス、スタンダード、デーリーニュースの通信員を見受けたり韓廷側の来賓ハ文武の各大臣十五名にして之ハ我文武官の重立ちたるものを加へ来賓の徳教約百五十名なりき宴会中ハ始終朝鮮

伊藤大使宴食

吾輩陪の麦酒すゝめ宮酣にして舞踊数番執行し十分の歓を尽し一同退散せしは本日の一時頃なりき

韓国皇帝は本日午後一時伊藤大使及び其随行員一同を宮中に招きて伊陪食仰付けらるる筈未宮中にて各国公使等に宮を賜わる場合に於ては大臣皇帝に代りて接待せらるのみ皇帝親しく御出でなるとなし然るに本日宮は皇帝親しく宴席に臨御し伊藤大使と其御手を共にせらるゝ由即ち伊陪食の例を始めて開けたるものといふべし伊藤大使は此の伊陪食の際伊藤元帥上ぐる答なり

龍巖浦開放の区域と時期

昨日韓廷外部は龍巖浦の開放を聲明したるまゝの其区域と時期は近々聲明すべしと外国公使へ通知せり

伊藤大使招待

東京鐵道會社三井物産會社支店等一行の主人となり今夜伊藤大使を招待し宴を開く由

朴齊純氏帰着

（仁川発）

逆賊に在りし外部大臣朴齊純は本日午前六時

朴齋純氏帰京

爆裂彈事件主謀者捕縛

鎮南浦平壤間の電線

ニ十分来国シカゴデーリーニュウスの通信船にて隨員二名と共に帰着したり領事館よりハ多田通譯生小牟田警部船にて出迎へたり朴氏ハ明日入京の所なり

（京城発）

昨日仁川に着したる朴齋純ハ本日帰京せり

爆裂彈事件の主謀者の一人なる李將李載和ハ一昨日警務廳の手に捕へられたり

林公使ハ韓廷外部に対し鎮南浦平壤間の電線

伊藤大使伊服元謁見

架設権を要求したるなり

三月二十七日（京城発）

一昨日伊藤大使服元謁見の模様を漏れ聞くに大使より内時局に対し十分に慎重の態度を以て萬事の御所裁あるべき旨吳々奏上し且宮中の紛雜あるハ尊嚴を保つ所以に非ざるべく須く宮中を静粛にして其尊嚴を保持せらるべき意味を懇曲に奏上し終つて服元申上げに対し韓皇帝より別に分れを惜むの所挨拶より尚御ことし幣国に留り朕を輔佐し時局の

伊地知出発

艱難を救済せば朕の幸のみならず朕が国家の幸なりとの勅語より大使以軍国多事の際永く滞在を得ざる聖意に愧ふ能はざると遺憾とも言葉上り皇帝に入り然らば致し方なし御帰国の後尚勅言を奏せしに朕を輔導せよとの勅語より当日の御陪食が朝鮮料理にて極めて鄭重のものなりと

前公使館附武官なりし伊地知大将、井上大尉と共に本日午前八時三十分出発帰朝の途に就けり

仁川発

北韓の電線埋設

仁川への渡航者益々多く去る九日より本日まで二六七千人に達したるが中に八今後の始末に窮して警察に保護を願ひ出づる者少なからざりつつ

平壌を中心とせる鎮南浦安州中和間の電信線は従来軍隊にして不便勘なからざりしを以て韓廷に於ても隊ごとに一線を埋設して複線とせんとの議ありしが林公使より此程該埋設を要求せりとの説あり

三月二十八日（仁川発）

古市隠栽の入京

韓国の大使派遣

古市隠栽ハ京釜鐵道の社員と共ニ昨日来着入京したり

（京城発）

韓国皇帝陛下ハ今回日本に答禮の為め大使を特派せらるゝ思召にて尤の意味の詔勅を発せらるゝたり

隣国の交り友誼を厚くする為め法部大臣李址鎔を特ニ親聘大使として赴かむ

而して其出発は今より十数日後なるべしといか

古市隠栽の歓迎視察

陸兵の衛戍

後兵電線を破壊す

京釜鐵道隠栽古市公威氏昨日入京せるこの両三日間滞在の上陸路鐵道線路を視察せる筈なり

（鎮南浦発）

我軍の前衛定ねて敵の偵察騎兵と衝突したり

（元山発）

後兵ハ寧遠迫走り電線を破壊し撫順に退却せり

東學党巨魁死刑

興郡守ハ其後又東學党十二名を捕へ巨魁金山獄應ハ死刑に處したりしにて一般平穏に帰せり

三月二十九日（京城発）

特派大使隨行員

韓廷特派大使李地鎔の隨行員として昨日左の五氏を任命したり

度支協辦　高永喜
鉄道院監督　玄昶運
陸軍參領　魚謙
駐日公使館書記官　玄晋運
外部參書官　某

定州占領

林公使と北韓電信問題

三月三十日（京城発）

一昨日午前我軍は敵兵六百餘駐屯せる定州を攻撃し之を占領したり敵ハ義州方面に退却せり我將校以下死者五名負傷者十二名なり

林公使より發して韓廷に請求し居る平壤鎮南浦間電信線使用の件ハ昨日韓廷より之を承諾し来れり林公使ハ韓皇の御召により本日午後四時より内謁見をなす筈

人参販賣契約事件

献金問題者の挙行

仏人ロンドン商会ニ宮参一手販賣の契約を為したる者ハ宮内大臣の由なりが元来宮参事業は内藏院の所管にして宮内大臣の関知せる所にあらざるに付き無論同大臣に於て斯る契約を訂結し得る權能なきものなれハ我三井物産会社の契約にハ何等の障害を及ぼさゞるべし

韓廷警務廳ニ於て當地韓人より我他兵部ニ献金せし者を捕縛せしとの噂ありしが右ハ全く誤りにて該献金問題者の内若干を着服し領収證を義捐者に示さゞる等不都合の行為ありたり依り其問題者ハ其筋の取調を受けたる

韓皇の久通宮殿下へ慰問

仏国公使の厳談

に過ぎざるなり

韓国皇帝陛下ハ平安道の某地に行幸中なる久通宮殿下に對せられ同地親筆視に勅令を下し慰問せられたるに依り同殿下ハ昨日答禮の電報を我公使館に致されたり右に付き林公使ハ本日午後参内謁見を願ひ同電報を捧呈する由而して林公使ハ其序を以て他の用向を仏国公使に厳談すべきなりと

仏国公使ハ去る二十八日韓廷外部ニ公文を送り仏人ロンドン商会ハ内藏院との合同契約ニ

依り西北鉄道に使用せる鉄道レール及び機械
代價九十萬元を立替へたるに大臣に對し韓廷は
毎月二萬元宛償却せる事を約せしめロンドン
商会ハ内藏院李容翊氏と人參販賣に付き他の
競爭者より高價に買入る場合にハ同商会ハ
棄約せるとの契約書を擔保とし是れも同
取替金の贈與を爲さしめ斯る有力なる契
約なりたに拘はらず政府に於ても此契約を履
行せざりなり此後政府にして果て人參を
無へむんばロンドン商会ハ止むを得ず合同契
約に依り既往十一箇月分即ち二十萬元を一時
に請求し殘額ハ必ず毎月二萬元宛の償却を受

国事犯人處断令改正

くべきとて強硬なる照會を發したるなり
韓廷法部ハ外国に依賴し国体を損せる者の處
断令改正の件を此程議政府に提出したる由其
大要ハ左の如し
右の罪人は既逐未逐に論なく大韓律賊盜篇
ガウキツの條に照し處断せる事
一外国政府に就て本国の保護を乞ひ或ハ
秘密を漏洩せる事
一本国政府の許可なくして擅に外国人に對
し借款借船鑛山鉄道土地
森林漁業製塩等の認許及び公用物品買

韓国特派大使随行員

入、顧問補佐官の傭聘合同契約を為す事
一外人の照会に依り官職を得んと欲する事
一外国の勢を借り本国を駕ぬす事
一條約外の土地森林川澤を外国人に賣渡し又
八名義を貸す事
一許可なくして外国に帰化する事

特派大使李範晉氏の随行員八既電の如く一時
任命したるも其後変更し更に左の如く任命せ
らるる

賛政　權在衡
宮内府協辦　閔泳麟
外部通商局長　丁大有
宮内参理官　李キゲン
憲兵　インゲンキウ
陸軍副領　魚但
駐日公使館書記官　玄善運
而して其出発迄ハ尚ほ多少の変更あるべ
しとのこと

古市古屋鉄道
敷の談話

古市隠敷八明日當地出発保路踏査の途に就く
べし氏の談に目下最も困難を感ずるハ材料運
搬船の缺乏なり現に小峴其他の隧道に使用す
る聖岩器の流箱ハ仁川に陸揚をべき二名丈無

事到着したるも釜山に陸揚をべき二台ハ船の都合にて空しく長崎に二ヶ月も留置せられたり斯る齟齬は汽艦のみならず總ての材料皆然り其他来国より来る鉄軌の如き一時地中海道航を困難とし法外なる戰時保険を請求されし等の事なれども今後ハ斯る事なるべく又小峴芙江間を軽便鉄道にて屠米べきやに傳ふるものなれども軽便鉄道とせば其費用と時日とに於て大差なし鉄軌敷設ハ目下北部ハ成歡まで南部ハジョウチン（不明）の到着せる頃にハ梧川を越て小峴隧道の入口迄竣功の筈なり併し全体竣功の期ハ豫定し難し

新任駐日公使

三月三十一日（京城発）

軍部提携玄昧運ハ本日日本公使に任命せられたり然るに急に赴任せるやハ未だ保し難し

明治三十七年四月分

韓國電報集

韓廷の人心鎮撫

外部大臣署理の任命

四月一日（京城発）

我軍隊の通過せる平安道沿道の官民逃走せる者多くして不便なるうざれば林公使は右に付き韓廷に照會せる所ろ〳〵に韓廷は昨日李重夏氏を平安道の觀察使に任命し直に赴任して之を鎮撫せしむる事とせり

新任外部大臣朴齊純氏は帰国後屢〻辭表を提出し出仕せざりしが今日金嘉鎮氏同大臣署理に任命せらるたり

亡命者處分條例

東京鉄道測量工事

仁川の境界

団体を損ずるものと認定し新條例に議政府会議を通過せり

（仁川発）

東京鉄道は京仁線牛角洞の停車場より東方土百米突の前面に在る沙洞に至る間を目下測量中

當港は既に午時と同様に落付きたるも火災保険会社中にては未だ保険の申込に應ぜざるものあり之が為め貿易金融等未だ常態に復せず

巡査銀行出張所

鑛山の銀貨缺乏

四月二日（京城発）

第一銀行は安州に出張所を設くる等にて其為め役員一名（二名！）昨日仁川を出発せり

雲山及び殷山金鑛は従来銀貨を以て坑夫の賃金を支払ひ居たる処近頃に至り銀貨非常に拂底を告げ殆ど休坑の有様にて困難を極め居るに付同鑛山の當事者より我公使館に銀貨取集の方の依頼を為し来りたりと

銀票下落と救洲策

平安同方面の韓人は従来金貨より銀貨を貴重
とするの風なりしが近頃に至り其風益々甚だ
しくなり来り今日にては銀貨一圓に付き金貨一
圓三十銭の歩合となりり是れに付き銀貨を標
準とし発行せし我軍用紙票は策の得たるも
のにして韓人の気受甚し宜しかるべき筈なる
に引き代へ準備の銀貨掛底せる為め軍用紙票
一圓は五十銭位に低落せり此変化なる経済界
の現象を救洲策とするの方法は日本より銀貨を輸
入し愚昧なる韓人共をして該紙票は何時にて
も銀貨と交換せらるべきものなる事を信ぜし
めて其債格を恢復せるより外なかるべし

清国の漁業権要求

林公使の注意

清国政府は日清戰役以前は平安　黄海両道沿
海の漁業権を得居たるも其後消滅し居れる
付清国公使は外部に向け未だ公然の照会に及
ばざるも内々なれども同漁業権を復舊せん事の意
を申込みたり

林公使は外部に対し公文を送りて曰く貴国皇
帝陛下内外の政務を刷新せるの聖意を抱かる
るは本使の深く見る所なり尚ほ此際宮中府中
に論なく各国人と各種の締約を考へに虜りて
は勉めて慎重の態度を変ぜべし若し之を欠く

敵を退く

伊国水兵の入京

時ハ国家の権利ハ之ヲ尊ム大なる損害を被ラ
ベシ本使ハ今敢テ貴国の営中府中ヲ本使ハ誠
實なる意見を容ラベキを信ジ貴大臣の考慮を
望む云々

（平壌発）

敵ハ宣川を捨テ退却せり

四月三日（仁川発）

伊国軍艦エルバ本日入港シ艦長以下士官四名
水兵二十五名入京せり公使館守衛の為なる

敵の敗走

慶興郡守の新任

北韓境上の情況

ベシ

（平壌発）

敵の主力ハ義州方面に退却せり

（京城発）

慶興にハ今度守任郡守を置くことなり金昌
洙新に赴任ス同人ハ曾て日本にありし稍ゝ日
本語を解シ又多少日本の制度に通じ居り

元山、德源等国境方面ハ一般に無事なる
慶興、雄基湾及び鍾城に猶多少の露兵駐屯シ

銀行券発行増加

驍馬斥候を放つて書夜偵察に怠るなし去れど
おせつと情の防備ハ相変らず薄弱なるに似た
りヤンチハ（電文不明旅順浦のことか）附近
の家屋にハ石油を注ぎて日本兵来襲せば直に
放火せるの準備を為せり吉林以北の朝鮮人民
ハ浦汐陥落せば今後の得意先を失ふ虞ありと
て熱心ル露軍の勝利を望み居れり

四月四日（京城発）

第一銀行の発行券ハ軍隊の入韓以来俄うに増
加し昨今百貫十萬円に達せり内釜山四十萬円

駐日公使の辞任

日本年史記と
露国事情全

仁川三十萬円京城三十萬円餘其他ハ十萬円
以下にて流通區域ハ京城以南の各港なり

駐日公使に任ぜらるし去晩運ハ本日辞表を提
出せり又同賛書官に任ぜらるる朴正宣ハ昨
日出発赴任の途に就けり

日本年史記と露国政府の感謝的寄附
金二千円を受納せべきやの伺ひ出で当地
三増領事より同社に照会中なりしが右ハ昨日
を以て急ぎ受納に決したるより同領事ハ直ち
右金額を本部に送附したり

東京出張

磨鉄道工の保護

日本人殺害せらる

原に大將昨日来着す

東京鉄道原路なる永洞　大邱附近にて其工事に対し動もすれば韓人の妨碍的行動をなすもの多し　東京の為め大邱の我警兵分屯所より十名を同地及び金泉の間に派遣し開慶の我警兵分屯所より十名の警兵を永洞と英江の間に派遣せり

志清道可興の北四里なるリウガンにて本邦人山下及び大澤とつふるの二名と外一名韓人の居に殺害されたるやの傳説あり尚確ならざる為め取調をなしたる可興に駐屯の警兵同地に出張せりとつふ右三名は傳て下駄を作ふを業とせるものにして其材料の桐木買入の為め同地方に入り込み居たるものなりと

（平壌発）

我年使昨夜義州に入る　敵兵を見ず韓人の語る所に據れば一昨二日舟に乗り馬を派ずして川を渡りて又敵は輜重を有せず豚鶏の生存を喰らい居りしとつふ

義州の敵退く

京 銀行券の偽造

榴連船員の暴行

（京博覧）

第一銀行券の偽造物昨今往々発見せらるる而して偽造券は如何にし精巧に出来れども其実物と異なるは券面の渋渋氏の肖像鮮明ならざると表面なる波方の線を所々切断し居れる點にて偽造券は大阪に於て造られしものなりと云ふ

（仁川発）

去る一日入港の日本郵船会社取扱榴連船パベルスバルク號の船員五名は二名の日本婦人を務長室に伴れ之を辱めたりとの説あり

仁川の現況

長森藤吉氏の死

に依り探訪せしに事実なるも右二名の婦人は當地兼島楼に来れる娼妓なる由

姫田廻漕店は近々安治川航路を開く筈

伊国軍艦ピエモンテは今日出帆帰途に就く

休舎伊の来穀百引所は十四五日頃立会を開始する筈當港の在来は凡そ一萬石なり又石油の入港なく殆ど皆切れの姿にて價格暴騰せ

長森藤吉氏は本日仁川発船にて帰国の途に就けり

答礼大使出発期

西鶴方面の敵情

四月五日（雨晴）

答礼大使李址鎔氏ハ来る十五日頃當地を出発
する筈なるの我公使館通譯官ハ川小太郎氏
ハ大使一行と共に一時帰朝して諸般の便宜を
計る筈なりと

敵兵ハ定州の一敗後少数の一部隊と宣川及び
鉄山に残留して義州に退却したるが尚ほ聞く
所に據ればなほ残れる部隊ハ其後義州に引揚げた
り鴨緑江を初め義州博川間の諸川にハ敵兵の
架橋したる形跡一も無く又定州迫進みたる敵

東学党蜂起の虞

の砲ハ門ハ再び安東縣に運び去られたり龍巖
浦にハ敵の一兵なきを確む過日嘉山に於て捕
へられたる敵兵の捕虜（七十名ともいへり又十
五名ともいへり）平壌に送らるべしと風説盛
なりと平壌より報道あり

目下平安道方面にハ東学党蜂起の兆候あるが
同党ハ成川江東を根據地となして田地家屋を
賣払ひ其金員を以て同志を糾合し光州 載溪
安岳等の各地に跋扈し益々氣脈を通じ居り元
来彼等ハ陰暦三月十五日限りにて糧食欠乏を
告げ餓死を可しとの迷信を抱き居るに今回

美国公使の派兵請求

戍兵の掠奪に遇ひ旦つ兵馬倉庫の焚る人心恟々として田園稼穡の事に従事すること能はざるより益々彼等の迷信を誘ふ為めに強ふるに至る無論彼等の決蜂起せざる場合の集にして深く憂ふるに足らざる可きも曩に平壌鎮衛隊一千名の中九百名銃器を持して逃亡したるものの之に加はり居れば多少の騒乱は到底免れざる所なる可し

美国公使は昨日外部に向ひ殷山地方の民心不穏なるにより同金鑛保護の為め韓国兵隊を派遣せらるゝ事を請求したり

又九 随員の変更

特派大使随員は再度変更されしも今度愈々左の通り確定し本月我公使館に通知ありたり

勅任随員

従二品礼式院副長　閔泳麟

奏任随員

正三品表勲院制章局長　勲四等　鄭泳植

正三品駐日公使館賛書官　玄善運

正三品憲兵司令部副官　陸軍正尉　甲鉉九

義州占領の前後

浦汐方面の近狀

正三品禮式院理事　李熙鉉
正三品外部參事官　閔鎬熹
六品外部翻譯官　魚允丁
尚ほ此外傷者三名ありしも特派大使一行ハ
未だ十五日頃出發の筈なり

（辛壬夜）
本日我軍の前衛部隊ハ義州方面に於て敵兵と
衝突したり

（元山発）
浦汐斯德より來りたる韓人の談に依れば浦汐

定州に於ける敵の死傷數

砲撃以後市街に在りたる清韓人は悉く逃げ去
り敵兵にも亦逃亡者數ならば破損の箇所ハ
彈丸の破片を受けたる民家なり
浦港より ポセットに達したる沿海ハ日本軍の旅
團未だ來ることなく人民は勿論駐屯兵も遠く退
却せり琿春地方にはコサック騎兵一大隊駐屯
し居り豆滿江及雄基港にハ多少の露隊ありし
のみなりと

四月六日（東京発）
定州占領の當時我軍の爲に撃退されたる敵

駐日公使の更迭

林公使と金礦保護

軍の死傷数に就ては今日迄正確なる報道を得
ず能はざりしが去今宣川郡等より韓廷に達せ
る報告によれば去月二十九日義軍八日百名の
死傷者を運びて本郡を通過し義州方面に退却
せりとなりたり未だ以て精確と称す可からざ
るも暫く其梗概を知るべし

駐日公使去暎運氏の稟表に金礦聽届けられ前
公使たる趙民熙氏任命せらるる事となれり

是来両国公使より書に我公使に向け雲山殷山
両金鑛の保護を要求し来りたるに対し満

義兵退却の確報

支満江方面情報

支なる處置を無へたりと云ふ

四月七日（京城発）

義州にたりし義兵八安東縣方面に退却せしと
の確報當地へ達せり

支満江の義兵八皆江岸より引揚たりと而して義
国に帰化したる韓人を集合し北方面の防禦に
當らしめ居るが如し義国が馬賊里の兵力を満
洲に集中したるやを否やハ未だ知る可からず
韓国政府八咸鏡北道防備の為め元山に出張た

殘留者

浦潮住民の立退

べを命令を平壤鎮衛隊に下せり

（元山発）

浦汐方面に殘留せし日本人は旅順戰敗の報道同地に達し居り我艦隊の因港砲撃せらるし後俄に捕虜の取扱を受くることとなり偽てこつりスクに移されたり其内男三名女二名は護送の途中脱走したるも十四日前鐘城にて又復露兵の手に捕へられたり

浦潮の在留民にしても八ヶ月の食糧を持たざるものは皆立退を命ぜられしが軍隊は未だ食糧

北韓の食牛貴騰

露の教練と俱楽

に欠乏し居らざ

鏡城慶興等の朝鮮人は其困境を超ゆるの危険を知り多大の利益ありたるも絶にて牛を露人に賣込みつゝあり

四月八日（元山発）

浦汐にある韓人二千名は兵式教練を受けつゝ露艦は近海に遊弋して俱楽を怠らざると聞く

伊国公使の謁見請求

（京城発）

伊太利公使ハ昨日同国皇帝ヲ韓国皇帝に贈うるべき大宝章の勲章を捧呈せんとし謁見を請求したり謁見の際ニハ目下仁川に碇泊中の同国軍艦ゲッハ艦長を帯同せべし

金一銀行券偽造

昨今第一銀行券の偽造多く警察署に対し既に千枚近くの届出ありたり昨日嫌疑者二名引致せらる

損害賠償支払督促

韓廷ハ今以て浅田洋服店の損害賠償を支払はず林公使ハ昨日公文を以て之を督促せり

日韓両国の慶幸

林公使ハ韓廷外部に公文を送り日本軍が義兵をして遂に義旗を退却せしめたるハ日韓両国の幸ひ大慶事なりとの旨を通告せり

林公使の照会

林公使ハ左の諸件を外部に照会せり

一、義国に在る韓国公使館にハ韓国官吏尚滞在して義国政府と外交事務を交渉居りと云ふハ事実なるや回答を得たし

二、城津に在る我官吏より報告に依れば本邦人一名慶興府に於て拘留せらるる是れ義人の探偵と見做し韓国官吏を指揮して拘留せしめた

ることゝ由なれば鏡城監察使に訓令して速
に解放せしめらるゝこと
三京釜鉄道速成に付き多数の工夫を使用せる
仏蘭西人の宿舎食糧等に充分なるらしむる事
沿道地方官に訓令し便宜を図らるゝ

（元山発）

北青郡守趙衡秉、陽長趙東憲は各〻義兵に通
じ我国の動静を報じ居り

四月九日（仁川発）

仏国軍艦ブッサド昨日入港せり

仁川の大事

昨夜出火より韓人家屋一棟焼失せり

韓廷の官制改革

四月十日（第㐂号）

韓廷ハ議政府を徳理衙門と議政を徳理大臣とし甲午改革当時の制度に復尚せんとする意なり徳理大臣には朴定陽又ハ沈相薫擬せらるゝなれど未だ確定せず

第二次の調査

林公使ハ明日保口次港を巡回して調査をべし

古市間諜の帰朝

（釜山発）

古市京釜鉄道徳哉昨日陸路京城より来着直に帰朝の途に就けり

長探の参領

四月九日（第㐂号）

咸鏡南道北青地方に清の参領張達寿は清兵を率て夜話に通じ我国に内情を窺せ居たるが先日来切に流言を放ち我兵の本年より侵略なるを説きて良民を惑はせり明らかに長探と認むべき行動なり右に就き昨日林公使より厳重なる處分を外部に要求せり

龍山開城間の鉄道

韓国特派大使

四月十一日（京城発）

京義鉄道は曩に起点たる龍山より開城に至る間の測量を経て急速に工事の進行を急きつゝあるが本月中に開通の豫定なりといふ

報聘大使李址鎔氏は愈〻十四日當地出發に決したり日本滞在八日を十日間の豫定なり又同大使が齎す韓皇より我皇室に献呈の品は特に今回宮中にて調製せられたる縫箔の卓子掛金銀細工等なり由今夜外部にて大使一行の送別会を明日は我公使館にて一行を招待して送別会を催す筈

（仁川発）

和田中央気象台技師は韓土の測候所を数ケ中央気象台第三測候所と称し昨日より観測に着手せり

新測候所設

獨逸軍艦出港

獨逸軍艦ブツサード艦は膠州湾に向ふ

韓兵元山に向ふ

（京城発）

當京城に在りたる平壌鎮衛大隊第五国境防備

タイムス通信船の報告

の命を受けて本日元山に向け当地を出発し軍
部大臣平雄烈八東門外まで見送りたり

四月十二日（京城発）

一昨日仁川に入港したる倫敦タイムスの通信
船海門號乗組員が當地英国公使に報告せし所
によれば同船が去る五日旅順口を去る三十浬
沖を航行中旅順より露艦一隻来り同船に對し
信號を以て航行を停止を命じ露艦の艦員数名乗
り込みありて書類を調べ居りし際右露艦は
旅順より日本艦隊襲来せりとの信號を受けし

露兵の防備

李大使の談話

により取調を中止し倉皇旅順に引返したりと
鴨緑江対岸の露兵は安東縣に主力を集中し虎
山九連城等に砲塁を築き盛に防備し居り又
鴨緑江内の黒嶋イカ嶋にある韓人の民家は尽
く焼き拂ひ居りと云ふ

特派大使李地鎬氏に面会して今回日本への出
張に付き同氏の抱ける感懐を叩きたに氏は曰
く今回は單に陛下の親書を齎らし日本皇帝陛
下に傳ふるを以て足ぎざるを以て別に何等の感懐
を抱かず余は日清戦役の翌年一度日本に渡航

京釜鉄道工事の便宜

せり事なり其時ハ諸在朝日短ゝりしを以て
充分視察をゝを得ざりしもども制度法律の完
備せる軍備の整備せる教育の普及せる等ハ実
に感嘆の外なりき今回の日本渡航ハ往復旅
程日数を加へ一箇月の移延なりしも到着後の事ハ
未だ確なる定めなりと雖も時に臨んで制度文
物等を視察し尚ほ関係を得ハ二三の名勝をも
見物せんと欲す云々

四月十三日（京城発）

林公使が暴に外部に向け韓廷ハ京釜鉄道沿道

趙民懋氏の辞表

韓人の信頼

の各地方に訓令を発し同鉄道の工事に便宜を
共へしめられたしとの照会を為したるに対し
一昨日外部ハ各地方官に示すべき訓令文を同
会社に送付し来りたり

駐日公使趙民懋氏ハ病気の為め電報を以て辞
表を逓送し来りしといふ

日韓議定書成立の後ル韓廷の或者ハ露国ぶ海
戦に於てして敗北したん陸戦にてハ勝利を得
べしとの疑心を抱き心中騒乱両端の有様なり
しが日本兵既に義州に ㋐ 鴨緑口以南にハ陸

朴齋純氏の辭職

報聘大使出発

敵又北韓を窺ふ

ど夜兵の影なきに至りしと聞き昨日初めて日本に信頼せるの念を起しなりとつぶやく

外務大臣朴齋純氏は辞表を提出し居たるが今こゝ聽届けらるゝなりとつぶやく

報聘大使李址鎔は明十四日午前十時三十分当地を出発し午後四時仁川より乗船して十七日下の関に着の豫定なり

（元山発）

或手段にて諜知せる所によれば五千の夜兵近日鏡城に来る由にて甚だ危しと騎兵四十昨夜八時同地に着せり数日前日本人一名虜興にて夜兵に捕はれたるものなり

四月十四日（京城発）

報聘大使李址鎔一行は本日出発せり見送人は韓廷文武各大官並に我公使領事等なり李址鎔不在中其官職は朴齋純にて處理せる筈なり

報聘大使の出発

（仁川発）

報聘大使李址鎔氏の一行は今日四年の汽車に

韓国王宮の全焼

敷地譲渡請求拒絶

て當地着二時仁川発九に乗組四時出帆せり

四月十五日（京城発）

昨夜十時半頃慶運宮内韓皇陛下御居間の近邊より火災起りしを以て皇帝陛下其他の方々裏門より来国公使館に避難せられたり火勢小なりと雖常に猛烈にして各宮殿大小の建物を焼き掛ん今尚燃え つゝ大災の模様 未詳

林公使より曩に外部に向け南大門停車場擴張の為め速に敷地二千坪餘の譲渡を請求し居たるに昨日外部より右請求に應じ難き旨を回答し来りたり

尚勲回憶

韓廷ハ通商條約締結の功により曩に韓国公使たりし花房義質氏に對し勲一等大枢章を贈りたり

豆満江方面の故情

四月十四日（元山発）

豆満江北岸にハ数十の露兵ありて行者を検査し同江の氷ハ既に融解せり浦汐より帰来せる旅客の談に浦汐の氷ハ未だ解けず数百の露兵

鏡城方面の情況

〃大砲を馬車に積み切りて至備江岸に移送し
つゝあり現今吉州に来襲党曼延の兆あり群寇
〃巡検して巨魁七名を捕へ一味餘類悉服せと
の報あり

鏡城に義兵来り電報刀を合鎖したる為め城津
との通信絶中旦つ義兵の声言に依れば壊派の
兵城津近南下せべしといふより同地居留民の
警愕一方ならず引揚の為め元山鎮守館に船舶
廻送を乞ひ数の浦丸今夕出発す余〃義兵の
聲言を事実とせば信ずべ

韓国王宮大災
慶報

四月十五日（京城発）

昨夜慶運宮の大災〃今朝に至りて漸く鎮火し
たり出火の原因〃謁見所なる咸寧殿両側のオ
ンドル近傾破損したるに依り其修繕をなす昨
日落成せしを以て乾燥せしむる為め過度に大
を燃したるより起りたるものにて折柄東風激
しく吹き荒み殿なれば直に其西隣なる宮中第
一の高楼中和殿の二階に燃え移り見る間に同
殿を焼き落し火勢〃一層猛烈を極め火元なる
咸寧、中和、観明（韓皇陛下の御居間）其他大小
の建物を悉く焼き掃ひ只だ其風上に当る東北

隅なる淳貴妃の御居間及び九成軒、宮内府、元
帥府、議政府等の一小部分のみを残し
斯く大災起り皇帝陛下皇太子殿下淳貴妃は
宮城の裏門平成門より米国公使館附近なる宮
内府所属の図書館嘯玉軒に避難せり玉体恙
なく其他一人の死傷者なかりし
林公使初め各国公使は乗り敢へず現場に馳付
け天機を奉伺せり
又昨夜各宮城門は厳重に守護し堅く鎖され
たるも我守備兵憲兵巡査消防夫は裏門の平成
門より入りて消防に尽カせしのみならず韓皇
御避難の際は途中を警護し御避難所を守護し
たるを以て此等の厚意に対し今朝韓皇陛下よ
り勅使を我公使館に差遣され優渥なる御挨拶
ありたり
林公使は本日午後三時参内謁見し親しく御見
舞を申上ぐる筈なり
此火災の為め損害は実大なるものにして建物
の損害は勿論宝物其他の器具等も持出に遑な
らざりし皇帝の御衣裳まで一物も餘さず悉く焼
失し只だ故関后の肖像のみは安全に持ち出さ
れたり
宮廷に於ては豫て第一を警戒する為ポン
プ十一台消火器等を購入しありたるも深く

各国公使の伊見舞

倉庫に秘蔵しありしを以て昨夜の如き非常の場合には物の用に立たざりしとは誠に遺憾の事なり

我守備隊は各国公使の懇請に依り昨夜各公使館を警戒せしめ今朝来我公使館に各公使等慎々来りて感謝の意を表せり

四月十六日（京城発）

昨日午後林公使萩原、国分両書記官及び各国公使一同は韓皇陛下の伊避難所に伺候し伊見舞申上げたるに韓皇陛下は殊に林公使に向い

日本皇室の伊視電

宮城建築委員

王宮大災復開

火災の際我憲兵、守備兵ぶ非常に尽力したる事に付き優渥なる伊挨拶ありたること

我宮廷よりの火災伊見舞の伊親電昨日午前韓廷に到着せしを以て韓皇は我陛下の伊厚意を深く伊満足遊ばされたる由

昨夜元老尹用善宮内大臣閔丙奭度支大臣朴定陽は宮城建築委員を命せられたり

今後の王宮建築任務に就ては其議未だ確定せざれども慶運宮の焼跡に直に新築せん思召

ものゝ如く傳へらるゝ元来慶運宮の位置は市街に接近し其周囲は不整不規則の建物多く王宮の位置として不適当なれば此際寧ろ景福宮又は昌德宮を修復し之を以て今後の王宮とする方宮中の神聖を保つ上より又建築の費用上より見るも得策なるべしとの議論多し併し未だ何れも確定せざるもの如し

今回の王宮火災に就ては朝鮮の事とて迷信深き朝鮮の原因なれども之を加ふるに種々の怪説を者は種々無根の風説を傳へ既に露国新聞記者の或せる如く其事件は全く偶然にして毫も他の

意味なきに非ざると確信する

避難韓人と日本商人

（平壌発）

多数入込みし商人等は或は前進したるものあり或は引揚げたるもあり又避難韓人等の帰来たるもの稍〻増加せり

浦汐及び北韓近情

（元山発）

昨日浦汐より二名憲兵より一名甲山より一名の韓人帰来せり其談を綜合するに浦汐に近日の砲撃にて第六砲台に多少の損害を受けたり士気一般に沮喪し居民塊に安んぜざるに其三

分の二は既に逃亡せり
軍務知事は日本軍攻め来りて抗敵する能はざ
るとき市街を焼拂ひて端川に退却し一物も
敵手に委さべからざると訓令せり
四隻の軍艦は書間港外に出づるも夜間は必ず
港内に入り水深に碇泊陸上に砲を敷設せ
ん此時彼等の唯一の頼みとせる砲台たる日
本艦隊より砲撃せらるるに砲台には朝鮮人を雇
ひ鹿柴を設けしも居少し加へ糧食は肩を
しらべ物資二割方の賠償に過ぎず
兵数は各兵種を合せ七千餘にて開戦前に比し
増加の模様なし国境ノウキイウスクに在る兵

城津居留民の引揚

数も千名に足らざるべし只若干の山砲を豆満江岸の
某地点に集め居れるのみ
義兵の鏡城に来りて盛に虚勢を張るも那なる
なきの一説には日本汽船一度十二日鏡城に着
せりとの報に接し若干の義兵同地に向ひ南下
したるものなりとも傳へらる鏡城監察使は李
容翊の甥にして郡守御長共に有名の義国党な
り若し此日日本汽船の同地に着せざりせば
防穀令を出せり甲山には時に馬賊出没せるの
みにて格別の事なし
義兵鏡城に来りて同時に城津居留民は韓国

暴徒の蜂起を気遣ひ居たるに暮れて十五日夜
臨渓（体津の北四五里）に五十餘名の来襲
部下民家に押入り数千円を強奪せり
鏡城にも獨り通信の厳正を保ち電報用ハ通
に義兵の手に捕はれたりとの説あり　城津以北
の電報は全く不通となる
十五日鏡城に於て義兵騎兵隊三十騎来り
近進み来りし為め城津の我居留民ハ十八日に
定まり居たる郷引揚を急に繰揚げ十六日午後
八時頃の浦丸に乗り沈み出発せ

四月十七日（京城発）

皇宮新営費又出

皇室電報取扱

慶運宮新営の費ハ内蔵院卿尹雄烈ハ勅命を奉
じ去る十五日二百萬元を支出したり

我皇室より韓国皇室の御親電は京城郵便局
長田中次郎氏自ら宮内府に持参し送交したり
注来如何なる電報を同氏を高尚院自ら送達せ
るの例なりしが過日田中局長より韓国宮内
府に交渉し皇室間に於ける電報ハ最も鄭重を
る取扱を要せるに付高等官を派遣して伝達せ
る事に決したるルのこと今回局長自ら送達し
たるは其内来に基きたるものなりと

敵の北韓進入

城津居留民引揚
後報

四月十六日（元山発）

前電吉州近辺より敵の騎兵八今十六日午前城津を襲ひ直ちに電報司を占領し當地城津間の電報不通となる城津居留民ハ同日午前九時無事引上げ

萩浦丸今朝六時入港せり川上分隊主任城津の居留民五十八名を引連れて引揚げ来り我通信員ハ無事なり

城津引揚模様

四月十七日（元山発）

城津居留民引揚の模様を聞くに去十二日午後七時頃国騎兵数十名鏡城に現はれ以つて五千人兵尋で到る上旨の電報鏡城より城津電報司に達せり時ニ城津元山間の電信不通なりしより十三日夜城津居留民會議して十五日朝陸行引揚に決したるも十四日午後二時頃漸く元山より電信開通せるを以て船を回さんとを求むるに直に七時船を発せとの返電あり此に於て陸行を中止せ十五日午前十時萩の浦丸入港したるに吳兵曹下の消息を得る為め十八日まで待つ

ことゝせしに領事館の諜者にして吉松こゝ
し韓人徹夜馬を飛ばして十六日未明城津に帰
来し昨日午後四時吉松に奇妙なる服装をなせ
る露の騎兵三十三名到着せるよゝ聚
急き引揚に決し一同領事分館にて写眞影の前
に撮影し帝国万歳を三唱し午前九時船に乗る
時に敵は既に嶺頂より壕に達せるとの報ありこの間
に於ける川上分館主任の處置は時宜に適し居
留民の引揚亦頗る沈着に行はれ毫も混雑せず
殘留せるは加奈陀の宣教師グリーフントにて
彼の二名のみ邦人の損害高は三萬餘円なり敵
はノーキエウフスクより二日間にて鏡城に来

りしなりとつゞ

四月十八日（京城発）

米国大流領事より火災見舞の電報昨日韓廷に
到達したりと

（釜山発）

来月上旬大邱に第一銀行出張所を設くる筈な
り

（京城発）

王城妥上に付内藏院より二百万元支出の件に

韓国政府の豫算

付尚聞く所によれば其額に相違なく即ち工事費として不敵取三十万元丈出したるに過ぎず又王城八景福宮又八昌德宮に移さるべきやの議しなりしが矢張り慶運宮を再築せんに決し明後日より工事に取掛り咸寧殿咸明殿即祚殿中和殿景光殿の五宮殿就中咸寧殿の工事を急がるべしと此度八勉めて簡素を旨とし德体を六十日間にて竣工せしむる見込なりと云ふ

（京城発）

韓国政府の豫算編成八例年二三月頃なりしが本年所ち洪武八年の豫算編成八大に遅延し右

駐露韓国公使の動静

親露党の末路

議定の事を度支部より昨日漸く各部大臣に通牒せりと

四月十九日（京城発）

一旦露都より巴里に引上たる駐露韓仏使李範晋ハ近頃又露都に引返し露廷と何等か交渉をなしつゝありとの報酬地に達せり

上海に逃亡したる親露党李学均八過日馬より落ちて頭部に重傷を負ひ生命覚束なしとの

日本軍接待官の出発

義和団客の談話

曩に外務書記官なる義和郡守に轉任し日本軍
接待官を命ぜられたる參領貝完喜は明日參領
奥譚と共に義和に出發せる筈

（仁川發）

十四日義和を發し昨夜帰着したる人の談に依
れば露軍は九連城なる安東縣に於て各要所に
砲壘を築き日夜虎山と鴨綠江の中洲に斥候を
出し彼我の競合なる敵は最も馬術に巧にして
我敵となる恥しらず彼は最も我歩兵を恐れ
我騎兵に對しては強硬なる敵對を為せり敵騎
の行動は頗る敏捷にて退却に巧みなり其馬は

露兵要衝南下す

強健にして如何なるものと飼料となるも差支
なく我軍の志気は旺盛にして兵士皆活動を思
ふ唯食物は海類や小豆野菜の類を欲き為め
困却せり將士遠征の苦思に餘りあり對岸の
露軍は約五萬と稱せらる活動の始まるも遠き
にあらざるべし

四月二十日（南埔発）

去る十六日鎮城に来りたる露国騎兵三十二名
の一隊は南下し既に北青に達したるとの報昨日
午後元山税関吏より當地の或る外国人の許に

城津の動乱

義勇郡等の出張

達ス

（元山発）

農兵三十三騎十文字後三時城津ニ着、直ニ日本人家屋を焼き払ひ治安を図地方ニハ亂賊蜂起シ住民各地に避難セリ

四月十九日（京城発）

義勇郡等兼日本北進年橋清彦貝完喜ハ本日當地を出発勢位シタリ

城津吉林の外国人

外部大臣更迭

（元山発）

城津ニハ尚左美国人三名吉林ニも尚在二三の外国人在留セるよしにて農兵ハ是等に対して仕誘亂暴を加へざる由なるも今日ニ於テハ元山以北の電流ハ農兵の為め切断セラレて不通となりしと以て其情況測り知るニ由なし

四月二十日（京城発）

外部大臣金嘉鎮ハ辞任シ李夏榮専任大臣となる

義州郡守の赴任

各居留地商業會議所聯合會

親義派の行動

（仁川発）

義州郡守として我軍人接待委員たる貝発喜代は昨夕下仁川より海路鎮南浦に行き同地より陸路赴任の筈なり

當港に開く筈なる在韓国日本人商業会議所聯合會は去る日（十三日）延期となれり

（京城発）

韓廷中一時は首鼠両端を抱きし輩も近来大に日本に信頼せるの傾向を示したる事は既報の如くなるが頑迷なる韓人のことゝて今尚ほ最後の得利は強大なる我国の手に帰すべしと夢想せる所謂親露派なる者なり此輩は中央政府を初め韓国の西北境一帯の地に散在し居りて互に気脈を通じ京城よりは此等同志に向け常に在韓日本軍の動静を報じつゝあり又北韓地方よりは我軍隊の行動計畫等を常に京城の同志に傳へ来るとか有様にて名巻の地位に在る某氏の如き節に義国戦捷の祈祷を唱へ居るやの噂さへあり

四月二十一日（京城発）

全羅道の暴徒

支兵鏡城に退く

全羅道金堤郡等より元帥府に向け同地及び全
羅泰仁等に於て無頼の徒党を結び昭義党と名
付け挙兵蜂起せんとするの情況あるに付き鎮
撫の為め出兵せらるゝと請求し来りたりと
云ふ

（元山発）

支兵の城津に着せるや直に避難したる韓人は
今北青に来り本通信員に去電したる報に依れ
ば支兵三十一騎八日本居留地の領事館郵便局
其他の家屋倉庫税関倉庫等に火を放ちて焼き

韓兵鏡城に向ふ

豆満江の防穀令

電信局の機械を持ち去りて通信機関を断ち十
七日午後三時頃鏡城に向け退却せり

参領金去を指揮の下に平壌兵若干本日元山に
入るべし国境防備方面に向かべき筈なるも金
領糧食等の用意なければ兵士は第一目的地に向ふ
やの疑問なり

（京城発）

清国末茂山会寧鏡城等各地の朝鮮人民は豆満江
上流北間島より米穀を輸入し居りしに今回該
島の清国官吏突然防穀令を布きしゆえ芝罘の

北韓の不穏

北韓の騒乱

朝鮮人ハ今ヤ飢餓ニ瀕セリ速ニ清国公使ニ向
フテ該信ノ取消ヲ交渉セラレタシト言咸鏡北道
観察使ヨリ外部ニ来電ス

（不穏説）

確カナル韓人ノ談ニ昨日咸興北青間ノ電報不通
トナル

四月二十二日（京城発）

咸鏡北道ニ義兵ノ出没セル事ハ既報ノ如クナ
ルモ其根據トスヘキ如キ一ツト方面ノ防

駐韓公使と朝鮮出稼人

備ニ関シ最近ノ情報ニヨレバ左ノ如
歩兵第六聯隊（抵擊隊二千名）
同第七聯隊（同上）
騎兵一個聯隊一個中隊（千五十名）
砲兵二個中隊（六百名）
山砲兵一個中隊（三百名）
要塞砲兵一個中隊（三百名）
水雷布設隊一個中隊（二百名）

清国公使ハ昨日外部ニ公文ヲ送リ豫テ清国来
山省ニ在ル朝鮮出稼民ノ多クハ日露開戰以来
北京天津太沽辺ニ移リ其取扱方ニ苦ムト

以て右等の地に至急韓国領事を駐在せしめらるゝ旨の照会を為さる

袁探と韓廷

袁国の間諜となり　我軍械漏洩の嫌疑ある北青鎮衛隊長及び同別官に対し韓廷元帥府は休職を命じ不日陸軍法院に於て審理せらるべく

城津焼討と外国人

城津に至りたる袁兵が海関所其他を焼払い狼藉を極めて北方に退却せし件に付き当地在住外国人等は幾人或々袁国が日本に対する慨慨心より斯る暴威を逞ましめしなるべし列国を無視し北通を蹂躙したるの責任到底免る能はず

白銅の相場

米国等備兵城内

韓国領事館新設問題

として批難の声高し

韓貨白銅貨の相場いまを以前より格別の変動なく大抵本貨百円に対し百八十五六円より百九十二三円の間に上下しつゝあり

去一月入城したる米国公使館守備兵八百名の内七十名当地を引上げ比律賓を経て本国に帰還し其残部三十名は依然留まりて守備に任ずべし

前電朝鮮領事館を清国に設くるの照会の件を

二十二日の釜山

清国公使より照会したる如く誕生たる駐清
韓国公使閔泳喆より韓廷外部へ電請したる誤
りにて其要ハ日露戦開以来清国東三省にある
朝鮮人が其職を失ひて行徒と動もすれハ清国
官吏の酷遇に堪ひ憤を北京の韓国公使館に訴
へ出で来たるを以て本公使ハ一々領事の職務
を取るめ繁に煩へなく頼たくば天津若くハ適当
の地へ領事館を置ケかたしといふたり

四月二十三日（釜山発）

昨日は居留地衆に勇ましく戦勝祝賀會を催し昼

木浦居留者同盟

北韓敵兵の態度

夜とも賑しく居留民ハ提燈行列を催せり

（木浦発）

新任監理の労働者積弊改革意見に付端なく海
関との間に衝突起り仁川海関長之を調停せん
たる本日来着せり

（元山発）

城津監理より北青発当地に達せり電報に依
れハ兵ハ電信機械を一旦監理署に持行きしも
監理の哀訴により之を返せりたれど電信係ハ
鏡城以南大部分破壊され修繕ハ無期限なり税

韓皇の下賜金

義州郡守出発

関の書類を拝收されたるに付て其一部を返せりと

（京城発）

過日王城大災の際我守備兵憲兵巡査等の消防に尽力せしに対し韓皇より慰労として金三百円を下賜されたりと

（仁川発）

義州郡守貝完喜氏は昨夕義州に向け当港を出発したり

在韓居留民会

来兵の下仁

伊艦の入港

北韓人の表裏反覆

在韓居留民長は当地に会合打合会を開き正会は近て開会せる筈なり本日迄の来着の居留民長は京城と木浦なり

京城にては来国水兵七十名士官一名は今朝下仁色ちに同国軍艦ラレイ號に乗組せり

伊太利軍艦一隻本日入港したり

四月二十四日（京城発）

北韓一帯の韓人は表面日本に好意を有するが

学部大臣の訓令

如く漸々居れるも其実我国に欺と通ずる者多く現に三十餘騎の我兵が鏡城より吉州に来り更に城津に入るや直に韓人は之を出迎へ一種なり斯くて我兵城津に入りし後は咸興地方の人気頗る高まり些迂潜伏し居りし東学党も機会だにあらば暴発せんとそる形勢なりと吉地の或方に電報達せり

学部大臣閔泳喆氏は各外国語学校に訓令して曰く語学の必要は外人等と交渉を為すにも小なれども学ぶに語学を学ぶ之に伴ふ才識の発達を図らざれば甚効なし宜く漢文科なし愛に才識

並銀行の形勢及び行

献納元山港一隻を特設

を養ふべしと

第一銀行の発行券は従来一円、五円、十円の三種なりしが今回十銭、二十銭、五十銭の小形券を発行せる事となり該券は風に富文店に着し居れども諸種の事情にて発行を躊躇し居りしが今来る五月一日より発行さるべしといふ

四月二十五日（雨晴）

本日午前十一時我国水雷艇二隻突然元山港に

木浦港御者問題
情報

突入し我汽船五洋丸を撃沈し其侭引還せり同汽船の搭載物及び乗組員の安危に就ては不明なり又同時に元山沖に四本煙突の軍艦一隻現はれたるも何国の軍艦なりや不明なりと雖も或は軍艦ならんと元山の居留民は無事なるも或は引揚げざるべからざるやとて事態の評議中なる報告地の確なる方に達せり

四月二十六日（木浦発）

人夫問題に関する新任木浦監理と海関長との衝突に対し外部は両者の招致を諭告し若し改

五洋丸撃沈後報

正を要する點あらば監理起草し海関にて取捨をべき旨訓令したる由なれども穏便に結着をるならん

（元山発）

露国浦汐斯德艦隊四隻は水雷艇二隻を率ゐ元山海面を巡航せしつゝあり四月十二時水雷艇は港内に入り碇泊中の商船五洋丸に対し船員の上陸を禁じ且つ船籍簿及び地図を押収したる後水雷を放ちて之を撃沈し而して午後一時に至り四隻の軍艦も亦入港し来りしが水雷艇のみは先発し午後五時東北海面に向

露艦の所在不明

韓仏同盟の流説

し出発せり居留地砲撃の虞ありとて居留民の大部分は避難の為め居留地外に退却せしが折悪しく降雨の為め其困難は名状すべからざりし

本日午前八時端川元山の北方約六十里を発せし太然丸は今入港したり其所報に依れば同船は航海の途中一の軍艦にも會せざりしと但し露国軍艦の在否は尚ほ不明なり

（京城発）

韓人間に日本の勢力を抑壓せんとて此際韓佛同盟を結ばんとの計畫ありて密々運動中なりと頃実らしく傳ふるものあれども精探の結果に依れば其例の朝鮮流の風聞に過ぎずして一顧の値だになし

秘密漏洩の取締

李鎬楨勢を挽ぶ

議政府贊政趙秉式と内務大臣署理李道宰との間には楨勢上の爭ひより常に不和にして李氏は或は官を辞せんかも知れざる形勢なり

是近外部と各公使館との間に於ける交渉事件が動もすれば外部に漏洩して新聞紙に掲げらるるを見て外部は慶應一方ならず昨今は秘密

五洋丸裏沈後報

の漏洩を防ぐん為め毎夜四名の番直を置くなど嚴重なる取締を為し居り

五洋丸ハ昨日午前九時元山港に入港し十一時に裏沈せしたるルのなれば搭載貨物ハ無論船体と共に沈没せり又長国水雷艇より信號をして船員に上陸を命ぜしなり同船に戦時禁制品を搭載し居りや否やを取調べざるを裏沈したる露行の甚しきものと云ふ可し

昨日午前十一時元山沖に現れたる露艦ハ四隻にして水雷艇二隻元山港に入り来り五洋丸を

撃沈したるものにして兼ねて敵に對しては微少の損傷を与へたるより一人も死傷者なしと敵の艦隊ハ午後四時過元山沖を通過し居りしが薄暮に及んで東北に向け去り同港居留地ハ偶て無事なりしが居留民ハ一時非常の混雑を極め駐劄隊掩護の下に後方の山に避難せり

（元山発）

昨日元山を襲ひし露の水雷艇ハ港内に入り五洋丸に向て裏沈をなしたるにより船員上陸をなべしと信疑しながら元山の時間を費へし直

元山居留民の避難

五洋丸

に轟沈したるなり

露艦は昨日午後東北の方面に去りたるも

如し夜間に及び避難者は元山附近の朝鮮村落

に充ち中には露箱せらるゝ残留者は徹夜警

戒に尽力せり

（仁川発）

五洋丸は当港堀力太郎氏外一名の所有汽船に

して戦時保険五萬五千円附し去る二十日釜山

を発し元山に向へたるものにて釜山元山間は

海路三百四哩なれば十節を有する同船は二十

元山航路の中止

五洋丸撃沈別報

二日元山港に着し遠避難当時の分仁川に向け

たる明太魚を積み居たるなるべし現時元山に

は此外同店の十イセイ萩の浦の二隻碇泊し居

る筈なり

（釜山発）

昨日元山に於て露国水雷艇が五洋丸を轟沈し

たるよし萬一を慮り当地の各汽船會社は當分

の間元山航路を中止せるよしなり

五洋丸は去る十九日當地を発し二十一日元山

に着し荷客を陸揚げ其日に新浦へ向け航行同

韓国本年度豫算

地にて明太魚を満載し釜山へ帰港の途中夜間水雷に触れ元山に避難入り破裂せるを撃沈せらるるものたるものにして乗客は韓人と乗組日本人にて皆無事なり

（京城発）

光武八年即ち本年度の豫算は大に従来此程漸く度支部より財政府に提出したるは近く閣会議に附せらるべし歳入総額千四百四万元にして歳出総額に対し若干の剰余あり歳出費目中皇室費は従来七十万元なりしを増加して百二十万元とし光武諸費の経費は六百万元の多きを

視察者来

王宮再建上棟式

西部領事官補

を告げ居れり

（馬山浦発）

細川家の瀬戸家扶熊本県の長野前代議士一行視察の為め来る

四月二十七日（京城発）

王宮再建の件は財政困難の折柄中和殿の建築は秋迄延期し郡祢殿の又本日上棟式を挙行せ

南京領事分館主任に特派せられ同部外交官補本

元山居留民安堵

五洋丸遭難詳報

日出發帰朝の上仕地に赴くべし

當地の確なる方に達したるを聞きたんば元山居留民は昨夜迄に何れも無事避難地より居留地に引返し其後異状なしと

（元山発）

夜間水雷艇が我商船を撃沈したるハ既電の如くなれども尚其詳細を報ぜんに去る二十五日午前十二時水雷艇ハ五洋丸の周囲を一周したる後日本語に通じたる将校水兵と共にボートにて本船に来り船員に立退を命じ若し兼諾せざれば捕縛せんと威嚇したるより船員ハ僅に身を以て逃れボートに乗移り間もなく水雷艇より魚形水雷を発射し機関部に命中せしめたれば海水逆巻き浸入し船体次第に傾斜し五六時間にして全く沈没せり五洋丸ハ總噸数六百噸の鉄製にて仁川堀回漕店の雇用船なり又同船長ハ水雷艇が来襲したる時四隻の夜艇の少しく隔りたる處に進せしつゝありしと認めたりといふ

洛東江と錦江の航路

（京城発）

京釜鉄道の材料を運搬する目的にて慶尚道の洛東江及び忠清道の錦江に小蒸気船を航通せ

日野連枝の謁見

朝鮮使節来着

しむるの件は落て韓廷に討議交渉中なりしが
此程韓廷より之を承諾し来りしに付洛東江に
て二隻錦江にて一隻の小蒸気船を就る京釜鉄
道會社の旗を建て航通せしむることゝなり
林公使は本日午後三時西本願寺日野連枝と帯
同し参内謁見せり
四月二十八日（写山浦発）
材料を運搬せる者の洛
細川藤麿藤枝瀬戸氏一行四名昨日陸路三浪津に
向け出発せり

其後の元山

韓廷の法律顧問

四月二十七日（元山発）
當居留地は全く平穏に復せり
四月二十八日（京城発）
豫て法律教師として法部に傭れ居たる佛国
人フレモーフ氏は此程満期となりしが更に其
傭を継續せるの交渉中なりし法部大臣閔泳熙李齋
純より本日議政府会議に提出せべき其継續契
約の草案は十二ケ条なり成り其第二条にては

商業会議所聯合会

開部外交官と分田通譯

レモーフは法部大臣並に協辯、関理者の職権内に在る指揮管督の下に服務すべき旨を規定し第四条に於て勅任官の待遇を與ふる事第五条には一ヶ月銀貨五百円の俸給を給する事契約期限は光武八年五月より向う一ヶ年間とする事等を規定したり

（仁川発）

商業会議所連合会は昨日打合会を開き本日発会式を挙行せり

農事視察の為め黄海平安道へ出張を命ぜられ

五洋丸の損傷

京釜鉄道重役来着

たる分田通譯は本日出發の筈なる開部外交官補は本日帰朝の途に就けり

五洋丸の損傷は右舷機関部水線下五尺にして機関を貫通せり他の部分には船體何れにも損傷なき旨堀田漕庁に着電せり

（釜山発）

京釜鉄道重役竹内、大江、中小路其等来着せり

（京城発）

商工学校新設の議

北清に名誉領事を置く

伊国公使謁見を要求

學部にハ新に商工学校を設立するの議あり日本商業学校にある留学生三四名を召還し教育たらしむる計畫にして此事と学部大臣閔泳煥より我公使に相談したるゆ

駐清韓国公使閔泳詰より先に韓廷に向け北清に於ける韓国人民を取締る為め領事館設置の事を請求し来り居たるが之に對し韓皇は名誉領事を置きて代辯せしめんとの勅裁を與へられたりといふ

伊太利公使本日政府の訓令により韓皇に謁見を要求したり

(仁川発)

第一銀行の京城仁川両支店にて發行せる小額手形ハ愈々五月一日より發行せる事に確定したり

(元山発)

露国騎兵百五十名去る十六日鏡城に来り翌日城津にありたる分と合し北青に南下の模様なりしも未だ来らず北青より城津に至る十三里間の韓人ハ道路を修繕して露兵の来るを待ち

露兵三百南下せり

紙手形發行

萩の浦丸と蒼龍丸

居り城津以北の韓人は悉く義兵団党にし日本人と取引せし者に對しては迫害を加へつゝあり

只今鏡城より端川に来りし者の電報に依れば義兵二百餘名鏡城に来り糧食徴発の命を発し南下準備の形勢なりと

四月二十九日（釜山発）

遅くも昨日までに北韓より入港せべき筈の萩の浦丸及び蒼龍丸は今尚未だ一般に憂慮し居り

鏡城敵兵の動静（後報）

万国赤十字会通牒

駐韓公使の抗議

（京城発）

再び鏡城に南下せる義兵は五百騎にして吉州迫進みたりとの報告地の或方に達せり

仏国駐劄韓国公使閔泳瓚氏は同駐劄の端西公使より同国に於て開催せるべき万国赤十字会は日露戦争の為め延期せる旨外部に報告し来りたる旨の照会を受けたる旨外部に報告し来りたり

昨日議政府会議に於て日露交戦中は通信及び送金等に困難の事少なからざるに付き義国に

本部寺連校

金剛丸沈没前報

駐劄せる韓国公使李範車及び館員一同と一先づ召還し平和克復を待つて更らに派遣せん事に決議し直に上奏して韓皇の裁可を得たるを

四月三十日（仁川発）

本派本願寺日野連校本日午後三時下仁丸近々軍隊慰問として釜山方面に赴く豫定なりと

（京城発）

元山より當地に達したる電報に依れば金剛丸は某任務を以て陸兵を搭載し某地点を發して

水雷沈没の通告

元山帰港中二十五日午後十一時敵艇三隻水雷艇二隻の為めに包囲せられ水雷砲火の為めに撃沈せらるる生存者八陸軍（士下）卒四十五名其他九名八望二十六日新浦に上陸せりとの報に接し元山より派遣したる救助船太乗丸之を收容し二十八日夜元山に帰着したり他の将校等八戦死せるものゝ如し

義国々境度八ルメコフ江義暦三月十二日附を以て今回義領沿岸に水雷を沈設したれば韓国の船舶にして烏港に出入するものゝ充分なる注意を要す尚ほ貿易の為の水路を出入せ

或嘱〜或嘱

ることを許さ故間は一切之を禁ぜとの意味を
咸鏡南道観察使に照会せりとて同観察使より
其照会文を外部に回送し来れり

露国々境筈より咸鏡南道観察使に宛て左の意
味の照会文を送り来れる旨同観察使より外部
へ具申し来れり

日露開戦せと雖も露国依然韓国とは親交を
持続せるものなり日本は今や露韓の交渉断
絶せるものゝ如く言做せも信ずべからざる故
に今後露国兵士及び人民にして韓国領内に
入る場合には貴国は決して敵意を以て之を
見ることなく十分の保護を便利を與へられた
し又貴国人にして露領に入るものは露国に於
て親切に保護せべし此趣旨を一般に明示せり
たし云々

韓國電報集

金剛丸沈没詳報

五月一日（元山發）

城津居留民引揚後間もなく夜の賊兵二百五十騎吉州より南下し將に北青を突うとせとの確報に接せしを以て我が金剛丸に某隊の兵員を乘せ或る確実なる集團に対して敵方偵察を行はしむ

此派遣隊は既にして航く其目的を達し二十五日午後六時半利原の錨地を發し帰航の途中同夜十一時十五分意外にも新浦沖に於て敵の軍艦三、水雷艇に出会したり敵艦に先づ停船を

命ぜる相圖として空砲を放ちたり而して後人
員收容めたる一時間の猶豫を與ふべき旨を我
に告げたり然るに十二時頃にハ船中に存した
るものハ悉陸軍々人ならず下士卒一同此時迄し
上官の命を守り甲板上に出でざりしを、翌午前一
時敵ハ初めて水雷を發射したり次いで爆發藥
を裝置して船体を爆發せしめたるが如く水雷
に船室を貫ぬき今ハ是迄なりと兵員一同甲板
に上り隊列を整へ急射撃を爲せり敵亦之に應
戰せ我兵死せるもの相亜ぐ此間將校ハ皆一室
に端坐して動かざりき
午前一時頃敵ハ第二の水雷を發射せり金剛丸
ハ是が爲め中央より二に裂け直に沈没したり
甲板上に奮闘せるものハ瞬く間に水中に捲き
込まれし其内再び水面に浮び上りしものも
りて其上方にたりし端艇に移り縄を截りて浮
流せしめたり沈ハ数次端艇を浸し幾分の沈没
せんとせしが重量物を放棄して僅に沈没を免
れたり其後力を極めて西に漕ぎ午後五時半
頃下士以下十餘名馬養島に漂着したり又三十
八名ハ他の端艇にて翌二十八日四午レウカ(?)
に着し偖て共に新浦に集まる
人夫及び商人の多くハ敵艦口ヒヤに收容され
しものの如し若干の海軍兵ハ端艇にて逃れし

りすれども行方不明なり陸軍々人八一兵も敵に
捕へらるゝものなく敵八大に我軍を恐れ二百
米突以内に進みしが遂に舷に接近せざりき
我兵八烈しき射撃を以て敵の砲撃を沈黙せし
むるに至りしとゝふ此最後の勇敢なる実に情
実を察し起きむるに足るものあり殊に此時
に於て小武器を携へ居りしもの五名あり生存
者八救助船春盛號に收容され二十八日午後十
一時当港に着せり其員数八下士三、兵四十二、
商人三、人夫六、計五十四にして其の内軽傷
十名稍〻重傷を負へるもの一名なり

京仁間の火賊

日上後報

（京城発）

本日午後火賊八十名京仁鉄道の線路に届き
当地と行列の中間なる梧柳洞に現はれ暴行せ
りとの報あり仁川の朝鮮巡検直に鎮撫に向へ
り火賊八間もなく素砂に移りたるが仁川より
ハ更に鎮撫隊を増遣したれば多分程なく鎮定
に帰すべし

梧柳洞の火賊八其数極めて少数にして同地と
素砂の間なる一村落に現れたるに過ぎざれば格別
の事なく昨夜来我憲兵警官等にて附近の線路
を警戒し居り

親露派の術策

韓廷の事理に暗く浮に動揺する事は今に始めぬことながら近頃露兵が城津を焼き掠及び浦汐艦隊が五洋丸を撃沈せしとの報に接したるを以て韓廷部内に於て或一部の者は得たり顧りとなし屋に磐を所付露艦三十隻元山に入港せべく今数の陸兵は豆満江を越えて南下せべしとの説を傳へ頻りに露国の未だ俄うに蔵如べうらざるとを鼓吹せるにより忽ち大恐慌を起し萬一を虞して此際一圖に露国の球党を押し付け置くは得策に非むとなし数日前朱錫冕（親露派）を春川の留学使に任命せり

揣て加へて今回金列丸の遭難傳はるにより大勢上には無論挫折なるべきも韓廷の勢力爭こ多少の変兆を呈せることは到底免れざる所なるべし

五月二日（京城発）

第一銀行は出張所を義州に置くに決し安州の出張所より行員一名仁川支店より二名を派出せる由なり

駐日韓国公使は皇居を昌德宮に移せを願同宮

陸奥韓国公使の引揚

に對する件及び内政改善の件に付き日本政府の勧告を容るゝ所なり

韓廷八議政府会議の決議に基き在京都に在る韓国公使に對し即時引揚を命ずるの電報を発したり

元山人心の危懼

（元山発）

五月九金剛丸等の遭難後一時人心稍〻鎮定し居たるが其後我が口口は帰り去りて港内寂寞となり旦つ天候若しくハ他の故障に因れるか待設けたる口口船の延着せるもの多きより居留民其他一般に危懼の念を抱き人心再び恟々たり

陸戰の結果と韓皇

五月三日（京城発）

我軍の九連城占領に對し韓皇陛下軍部大臣を勅使として林公使及び原口少將の許に差遣し祝言を表せられたり

新開港開放準備

韓廷八先に龍巖浦の開放と各国使臣に声明したるが此度日本軍最後を遂く撃退し同地一帯平穏に帰したるを以て外部に於て近く開放を

実施さるべきに其準備に関する議案を議政府会議に提出したり

今回義州及び龍川西郡の開放に就ては従来官制規則改正の必要あるを以て外部に同改正案を昨日議政府に提議せり

外部に駐在韓国公使及び館員の帰国旅費支給の事を昨日度支部に照会せり

（仁川発）

在韓国商業会議所聯合會に提出議案に付き次

監理署官制の改正

公使旅費の照会

商業会議所の決議

収議中なりしこの本日正式の會議を開き左の諸件を可決確定したり

一、殖産工業に関し韓国内地に放資する本邦人の權利を確保せらるべきこと

一、沿岸航海權（河川の航行權をも含む）を獲得すること

一、韓国各道必要の地に農事模範場を設置すること

一、韓国電報局に日本文字を併用せしむべき直通の便を開く様韓国政府に交渉を請願すること

一、開港、開市場を懇設すること

萩ノ浦丸の安否

以上決議ハ皆我韓国公使ニ建議請願セル筈なり

備地堀内回漕店の所有船萩ノ浦丸（百二十六噸）ハ去る二十五日即チ五洋丸の撃沈されし其日の午後六時頃前津を出発し釜山直航の途ニ上りしに今に至る迄何等の通知なき中及或ハ丸船の者ハ非常ニ心配し居れり

五月四日（京城発）

北韓の防備

萩ノ浦丸の行方

韓廷元帥府ハ曩に北方防備の為め元山ニ出陣し居る平壌鎮衛兵に対し更に北青まで進軍セしめとの訓電を発したりと

（仁川発）

萩ノ浦丸の消息ハ今日ニ至るも杳として知るを得ざるも政府電報に丸船が中村丸を撃沈したりとせるは其時刻と云ひ北韓航路に中村丸なるものなきを以て見れば或ハ萩の浦丸にハちがひなしとの説あり同船ハ前津より明太魚を搭載し釜山ニ回航せしものにて船長ハ篠崎兼四郎の外船員二十三名を乗せ居りと

商業会議所の決議

商業会議所聯合会ハ本日開会し先づ日韓議定書の訂結に就て我政府及び外務当局者に感謝の意を表さゝと同時に之を確実に履行して其効果を收むる以て日韓貿易の發達を促し両国の福利を増進せんことを望む旨を決議し夫れより左の諸件を議決せり

一、我海陸軍に對し質状を送る事

一、韓国の幹線鉄道より元山への支線を敷設する事

一、勧業的銀行を韓国に設置する事

韓国沿岸の我漁業権

韓史北清に進出

（京城発）

曩に我公使より韓廷に請求したる平安、黄海江原三道の漁業権ハ已に韓廷の承諾ありたるが如く傳ふる者ありしも右ハ議政府に提出せられたるに過ぎて未だ同会議にさへ上り居らざる由なり

韓廷元帥府より豫て国境防備の為め元山及び出張し居りし平壌鎮衛隊に對し北青迄進むべしと命令せり

五月五日（仁川発）

京釜鉄道工事

猶艇入港

祝捷會

萩ノ浦丸

京釜鉄道理事中山忠嘉氏昨日筑後川丸にて来着せり

猶逸軍艦ヘルタ四年膠州湾より入港せり同艦にハイインリッヒ王坐乗し居り

居留民ハ昨夜祝捷會を開き来港武官を招待せり

（釜山発）

萩ノ浦丸ハ新浦沖にて裏況せられたるものと思はるゝ元山領事の報に據る

（仁川発）

商業会議所聯合会ハ本日林公使、萩原書記官臨席の上開会式を挙行したり

（京城発）

林公使ハ昨日韓皇に内謁を奏したるが其内容は主として内政の改善に関する事にして尚ほ終りに近頃四人の外部大臣の更迭したるを見たる陛下に直接に奏上し得る者ハ只一人にして余ハ尽く内官を経て奏上するに過ぎざる国際

聯合會開会

林公使の内謁見

外部大臣の奏上

浦塩領事事務所廃止

上及び内政に内閣を組織せしむるが如き
業風に速やかに改むらるべしと奏上したるに韓
皇は殊の外聴聴を傾けられたりと

外部大臣李夏榮は昨夜韓皇に慇懃して韓国の
信頼すべきは露にあらずして仏にあらずして唯だ日本
のみ眞の友邦なりと説き日清戦争及び今回の
日露戦争等に付き詳細奏上せる所なり
なりと

韓廷外部は昨日慶興監理に向け浦塩に於ける
領事事務所を廃止せらるに付速に撤退せらるる様回

京城の祝捷会

所に電達せべき旨訓電したり

五月六日（京城発）

當地の我居民及び龍山及び永登浦の我居留民
合併して今日我軍の戦捷祝賀会を開く又午前
九時より倭城臺紀念碑の前に招魂祭を挙行し
四年より昌德宮を借受け韓廷文武大官五十餘
名を招きて饗宴を張り午後三時倭城台にて祝
賀会を開き七時より提灯行列を行ふ種々の餘
興ありて當地にては未曾有の賑ひなり

韓皇の下賜金

萩ノ浦丸の行方

稿艇入港

本日戦捷祝賀会に付き韓皇陛下より日本貨幣一千円を下賜せらるゝなり

（仁川発）

二十五日以来行方不明の當港堀回漕店所有汽船萩ノ浦丸は同日午後九時頃元山沖合にて撃沈せらるゝたるなりと傳ふるも未だ確報なし

稿艇入港せりと聴昨日入港せりなり

五月七日（東京発）

日本の戦捷と親露派

韓国陸軍決定

親露派排斥せらる

韓廷は日露戦争の勝敗に付き常に半信半疑の間に迷へる居たるが今回九連城の戦捷にて初めて日本は單に海戦に於てのみならず陸戦に於ても優勢なる事を認知し其意愈大に我に傾けり是に於て親露派の輩は最早詭辯を弄するの餘地なく悉く屈服し居る有様なりとゝふ

洪武八年度豫算は歳入千四百二十一万四千五百七十三元歳出千四百二十一万四千二百九十八元に決定し二百七十五元の歳入超過なり

豫て親露派にて陰謀の策を弄し宮廷に跋扈し

京釜鉄道工事

て常に我妨害を為し居りし妻鍋鎬ハ不都合の廉ありて遽に本宅を免じ宮中へ出入を禁ぜらるゝに至れり

五月八日（京城発）

京釜鉄道に於ては近数設費の標準を定むる為の各請負者をして試験的工事に従はしむるが此度愈〻各部の標準價を定む鹿島、志岐、阿川、日韓工業組、秋間等と請負本契約を結びたり各請負人等は目今一万人以上の工夫を使役し殆ど全部に亘り工事を施し居れるが全体中唯一の難工事たる肴峴隧道ハ今に尚ほ岩層堅く鑿岩機を用ふるも未だ四月頃ならでハ開通覚束なきも一方に隧道工事を進捗せしむるも共に兎に角全体の開通を急ぐ為スウサツチバツクを以て山を越せの方法を取り来月中に後工の苦なく軌條の敷設は南方釜山より肴峴のスウサツチバツクまで北方ハ永登浦より都司洞迄凡て百四十哩を後れり過日入京したる大屋技師長中小路の為ハ両三日陸路踏査に上る者

七月七日（元山発）

北韓の狐虎

義人の活躍一笠

端川よりの報に接ハ義兵百五十（四百五十？）
復又鏡城に来りしもの、如し彼等ハ揚言して
二千の兵近々南進せべしといふも余は之を信
ぜず先づ一千名近くの兵と外に砲若干なるん
と思ふ

五月八日（京城発）

龍川郡守より韓廷への報告によれハ義国森林
会社が昨年来龍巖浦に建築せし家屋工場ハ悉
く焼失烏有に帰ぬたりと

駐清特国領事

米国行覧会と韓廷

韓廷ハ北京、天津、大沽に置くべき名誉領事
に適當なる人物を求めて報告せよと駐清公使
に電訓せり

米国より曩に韓廷に向つて萬国博覧会に参同
出品せんことの通牒を受けたるも外部
に米国公使に對し博覧会にハ参同せべき若な
れども俄に出品の準備整はざるを以て遺憾な
ども出品ハ見合せ度旨の回答を與へたりと云ふ

（元山発）

北韓情報

約千名の露兵鏡城に在りと称し敵前報せり
北敵の声言は其実力と反比例に漸次誇大となり俄に信ずる能はず彼等の一部は或は北青辺まで偵察せるやも知れず
目下北韓の電信は城津の機械をタンセン迄持来りて是より通じつゝ今の所にては異状なし
去月廿四日城津を発し本日當地に帰着せし人の談に當時城津には二百七十名（一説には四百名）の露兵ありと傳へらるるなれど二十七日までは南下の模様なり吉列には敵の一兵も認めず城津の外人家屋三軒は皆無事な

韓国偵察員

り、居留地の焼跡は既に工作を始む、城津以南の人心は全く露軍に傾きたれど猶り北青の地方除かみは若し余令ならば直に日本と合し露軍に當らんと雪みを居れり但し曩に露探の嫌疑ありし北青大隊長及副官は三名の憲兵に護送せられ本日當地に着せる筈

（馬山発）

神鞭石原の諸戈昨日釜山より来着せり

五月九日（京城発）

通信院教師

北青附近の賊

漁業権と中枢院

兼て韓廷通信院の電信教師たりしT抹人ミユレンスデフドは契約満期となり韓廷ハ更に七月一日より一ケ年の續約を為せり

昨夜元山より當地或方に達せる電報によれば義兵若干名馬賊を率ひて北青の附近長津に南下せりと

我公使より儀て雲州中なる黄海、忠清、平安三道の漁業権の事に付き議政府会議にてハ一應之を中枢院に諮詢するとに決し其旨を照会したるに中枢院ハ否決せり旨議政府より復牒したりと

第一銀行出張所の前進

大江、中貴栗塚三氏

（仁川發）

第一銀行ハ鉄山出張所の設置を見合せ安州に在りし出張所を安東縣に前進せしむる事となし出張員ハ本日同地を出發したるよし

京釜鉄道会社取締役大江卓 同役員中島多嘉吉代議士栗塚省吾の三氏今朝當地に着し直ちに入京せり

五月十日（東京発）

韓廷改革の端緒

一般泰文明国の免れざる所なるに由来韓廷は
に於ける迷信の甚しきに殆ど吾人の想像に及
ばざる程にて其弊力八年ニして拔くべからざ
る事は只に吉凶のトをなして宮中を惑はせる
みならず常に政治上の問題に容喙し国務の進
行を妨げたる事甚だしからざるに然るに韓廷にては大
に時局に鑑みる所なりしを昨日宮内大臣関泰
亮ハ此等巫女ト者に対し断然以来宮中に入る
を厳禁したり此大英断にて韓廷の改革其緒に
就けるが如く思はるるも例の朝鮮の事なれ
バ此例新の處置が果して永續するや否やは即

郵便局と軍用紙

金州九遺難者実験談

成鏡引上の進捗

ち疑はし

尚地郵便局ハ本日より軍用紙葉及び円銀を受
理する事となりしが而して其換算價格ハ
九十銭なりと云ふ

五月八日（元山発）

金州九遺難者実験談

五月十日（仁川発）

ワリヤーク號引上ハ第一期第二期に分ち就業

中なるを以て豫定の如く本日迄にて第一期引上を終り大砲三十四門、並に附属の重量物は悉皆引上を終へたり昨今一日の就業は潮の加減にて僅かに八時間に過ぎず

（京城発）

本日午前七時等辺近傍なる价川方面より露の騎兵二百突然安州に襲ひ来り我兵之を撃退中との報あり確なる方に急報ありたり

同安州を襲ひし露の騎兵は鴨緑江上流楚山より長津に向ひし者の一部隊なりとぃふ

楚山郡守より韓廷に達したる報告によれば四月十五日露兵二百騎馬賊を率ゐて本邦に来り支那人十餘名及び塩舟四隻を捕拿し十七日には鎮衛隊の分屯所に闖入して銃器弾丸を奪ひ去れりと又数日前咸鏡南道観察使より の報告によれば露兵馬賊と混じて一團の盗賊隊を組織し楚山、渭原、江界を経て長津に来り沿道到る所の人民に對し洋銭等は日本人に加担せる者なるべしと称して然らざれば其證拠なしと称し我に鶏豚等を供ふべし拒と威嚇して掠奪を恣にし居りたりと去れば前電の今朝露兵二百騎安州に襲来せりとは少しく大袈裟に失し唯是等賊

露騎兵の奇襲

韓人の露兵出没

奮闘十三時敵騎撃退

法の頭はかゝを得へしとのに非ずやとの説も

本日午前九時安州平壌間電線開通し我兵襲来の詳報到る曰く昨日襲来の敵は其数明らかならさるも確に二百騎以上にして安州に在りし我兵は午前六時より午後七時半迄十三時間の長き之と奮戦し其内安州附近に在りし我兵の援助を得て遂に全く撃退せり敵は寧辺雲山附近に止まる居るものゝ如し

五月十一日（義城発）

敵兵来襲後報

韓皇の詔勅と議政府慰辞職

昨日来安州平壌間の電線不通の為め其詳細を知る由なきも安州に来襲せし我兵は昌城の対岸に駐屯し居たる者翔洲を経て南下せしものにして先に北青に赴きたる者とは別働隊なるべしとの説なり

韓廷各大臣は党争軋轢を事とし諸政一ル挙らざるを以て韓皇陛下は昨日議政各大臣に対し其失政を責め左の詔勅を下されたるに各大臣は恐懼措く處を知らず悉く責を引いて慰辞職を奏したるも然るに斯は無論形式に止まり聴

屆けらるる事ハ ちらざるべし

詔勅

政府諸臣の職責に就ては往来屢〻戒飭せし處
ちゝ〻し因循姑息諸政緒に着うゞ施措其宜を
失し百事挙らず政綱弛廢せり朕不德なりと雖
も卿等ハ斯の如くにして国事を度外に置うん
と欲するか又朕の事を以て聽くに足らずと為
すか思ふに是に至ハ憤慨に堪へざるなり方
今国歩の困難日一日より甚しく富強国を治ろ
一刻も忽にすべからざるなり故に是に更に戒
飭す卿等其ハ深く反省する所ありて益〻勵精
克く其職に叶ふ悔ゆる事なうん

宮廷廓清の着手

韓皇陛下ハ宮廷廓清の為め巫祝十筮の徒を出
入を禁ぜらるゝしかみなならず同時に内官をも退
けらるゝとつぶ

革賊京仁徐を侵す

昨日午後京仁徐のソシヤ驛に革賊十一名来り
て發砲せしに依り我驛員二十五名之を追擊し
て逮捕せんとしたるに革賊逸早く逃亡したり
とつぶ

安東縣に出張所

前電の如く第一銀行ハ義州に臨時出張所を置
く事を見合せ安東縣に永久的出張所を設置す

安和戰鬪詳報

る事に決し来る十五六日頃より開始せる筈なり

安和戰鬪の詳報なりと云ふを聞くに同地附近
賊屯の一小隊ハ安和より急報に接し昨日午
後一時到着して朝来戰鬪中なる我兵と共に力
を合し交戰し同夜ハ敵兵退却の模様なきを
以て戰鬪前哨を張りて夜を徹せり本日午前六
時に至り敵ハ仝川及び順川方面に向け退却し
初めたるに依り我兵ハ目下追擊隊を出して捜
索つゝあり又今朝六時三十分嘉山及び粛川
より到着し来れる部隊ハ今尚ほ城壁に據て警

草賊の出没

戒中なり此戰に於て我戰死四名負傷六名敵兵
死傷五十名以上捕虜下士一名なり該捕虜の言
に依ればその敵の数ハ五百名以上なりと

（仁川發）

京仁線素砂驛に昨日又武器を携へたる草賊二
十名顯はれたりとの急報に接し警察の巡査
九名、憲兵二名、巡檢六名昨夜逮捕に向ひ
二名を捕縛し他を追擊したるに依り巡査巡檢五名更に増派
されたり

太神宮例祭の中止

當港太神宮の例祭を本日執行し盡て戦捷祝賀の為め種々の餘興、提灯行列なる筈なりしに雨天にて中止となる

米艦の入港

米国軍艦シンシナチー號上海より本日入港し

大臣總辞職後報

五月十二日（京城発）

今回韓廷各大臣の總辞職に付き一二大臣の更迭に行はるべき模様なり韓皇は昨夜度支部大臣朴定陽、軍務大臣君雄烈、參政趙秉式、

安州戦未の報

賛政權重顯、警務使申泰休に對しては辞職をすることなうんとの批答を下されたり

其後安州より の報に依れば安州を離れし敵の死傷者五十餘名其中死者將校一名下士卒十名は我軍にて確に之を認むることを得たり敵の捕虜下士以下二名戦利品は軍刀、小銃、馬具其他多数なり捕虜の言に依れば敵はマドリトフンキ（？）に属するコサック騎兵第十五聯隊（三中隊編成にして ハルピンスキー大百ノサスリスキー一百）にして彼等は達陽より鉄道輸送を受け同地にて下車し日々十里以上の行程を

大使帰京の電報

以て楚山仙川を経て安州に向ひ前進したり彼等の手数八日本と戦争を嫌ひ士気揚らず糧秣八十二日分を携帯し来りたるも其他は奪掠に依ること

韓皇は報聘大使李址鎔に対し日韓両国の間柔遠を要すべき事件あるに付き出発を見合せ暫く滞在すべき旨を電命せり中

鉄道工事の妨害

京釜鉄道線の英江太田地方の韓人は太田の豪族を擁して鉄道工事に妨害を與へ不穏の形勢あるを以て明日當地駐剤隊より七十名右鎮撫の為め出発せる筈なり

北韓義兵の消息

（元山発）

最近に得たる情報に依れば鏡城に於ける義兵八豆満江岸に向け漸次退却し目下留まる者八二百名内外に過ぎず一部隊は茂山を経て間島に入り渾春に向ひたる形跡あり其行軍の跡八甚だしき掠奪を為さず又各民家より糧食を徴発せし為め北韓の地方人民一般飢ゑ食料に缺乏を告げ居れり

鴨緑江の敗兵ら

三四日前長城を去りたるカンカウよりの報に

五洋丸来航員

北韓の食物乏し

鴨緑江の流域なる楚山、渭原、江界地方には数十名の露兵来り馬賊と合して同地方を侵し頻りに掠奪を逞しし居ると多分鴨緑江岸にて敗兵の一部ならんとのふ

五洋丸船長以下二十四名今明日の中帰国の途に就くべし

鏡城以北の海岸一帯には露の監視兵を配置し居り同方面は露兵の剽掠と沿岸の蒸気ノ交通絶にして食物欠乏甚しく鏡城の如きも居民の過半は昌浦に避難せり

京城鉄道と韓廷

報聘使へ電報

（京城発）

韓人間に傳ふる所によれば外部大臣李夏榮は議政府に左の意味の提議を為せりと曰く

京義鉄道は目下日本の手にて敷設中なるが日露戦争終局の後は之を韓国政府に還付せざる事と様の日本政府に契約し置くの必要なりと云ふにあり

韓皇より報聘大使李に対し日本政府に向て交渉すべき事件あるに付暫く出発を見合せべきを旨電報を発せらるゝに聞く

韓廷動揺止む

萩浦丸撃沈確定

一昨夜辞表を呈したる右大臣に対し皇帝より
再び其職に復せんとの旨の批答ありて皆復職せ
べし

（釜山発）
萩ノ浦丸に金ゝ去月二十五日袁艇の為めに撃
沈せられたるものに確定し本日領事館より山
川回漕店へ申渡しちりちり併し其詳況は尚ほ
秘密との事にて聞くを得ず

五月十三日　京城発

京義鉄道問題

林公使の照会

賊徒引渡

昨電外部大臣の京義鉄道に関する提議ハ果し
て外辺ノ意に悍りて之を議政府会議に上せし
とき中止せらるゝ

林公使に外部に対し韓廷顧問聘用の件ハ以来
本使に相談せられたき旨承て照会したるに既
聘顧問雇傭の場合にハ亦同様の手續を書さん
たき旨照会せり

（仁川発）
素沙の賊徒捕縛に向ひたる警察巡査賊徒四

仁川の提灯行列

神戸如一行

安州遼戰後聞

名を引致し来れり

昨夜戰捷祝賀の提灯行列あり非常の盛況を極めたり

（大浦発）

神戸如一行只今寄港を居留地を巡回し領事を訪問せり

五月十四日（京城発）

安州よりの後報によれば十日安州の戰闘に於

ける我軍の死傷者左の如し

戰死者　工兵一等卒　片山治郎吉

同　補充輜卒　塩谷茂次郎

同　酒保　釵滝タダン次

負傷者　憲兵軍曹　本郷辯吉

同　歩兵上等兵　中村無市（重傷）

同　歩兵一等卒　二口重次

同　同　大野平次

同　同　陣内新七

同　馬卒　佐藤磯男

同　人夫　畑中三次郎

敵に此戰闘に於て戰死将校二名、下士卒十二

名の死体を遺棄し退却したるを以て我軍に於て之を安州城東北方の高地に埋葬せり敵の負傷者ハ三十五名にして皆敵の擔架に依りて搬送されたり右ハ當時敵の虜りに使役せられたる韓人の其数を数へたるにより雖ども

たるもの廿五名の負傷者中途中に於て二名ハ死亡したり戦利品ハ鉄砲五、軍刀三、馬具二、車輛二、陣彙百二十袋にして其他ハ衣服類なり俘虜二名ハ平壤に送れり

五月十三日（京城発）

白銅貨の暴落

韓国に歌

韓国白銅貨ハ昨今非常に下落して日本貨百円に對し二百四円となれり其暴落の原因ハ日本軍の北進に伴ひ韓人らの物品を買入れし場合大なる韓貨の需用減せしと且つ此れ近中也中なりし白銅貨の鋳造を開始せしより今後を気遣ひ一時に市場に出したるもの多きに依れり と

韓廷学部にてハ今回日本の君ヶ代に倣ひ一の国歌を編成し全国学堂に布達せりと

五月十四日（京城発）

漢城条約問題

忠清、黄海、平安三道の鉱業権の件に関して
は先に議政府にて一議に及ばず我申込を拒
諾したるものの模様なりしが参政趙秉式中枢院
議長李逌鎬に対する或恐嚇なり殊更に中枢院
の議に附せしに同院にては之を否決せんと同
時に一方にては宮廷の力を借りて同問題
を排斥せんとの形勢を現しなり其結果として
昨今趙秉式は精々立場を失ひ或は辞職するに
至るべし知れざるの形勢となり斯る有様に
て同問題の議政府の議に上る事は一再ならば
延期され明後日の議政府会議にも上さる事

と なり居れど例の韓廷の事なれば又々如何に変
せらるべし知れざる

（仁川発）

神戸戦艦の一行十二名今朝の大礼丸にて来着午後
一時の汽車にて京城に向ふ

神戸戦艦の一行

五月十七日（平壌発）

数日前殷山金鑛の支那坑夫十餘名ミーシンダ
イにて数百の義兵に襲撃し所持金百餘円を奪
奪せらる由なる義兵は該金鑛に於ける外国人

殷山附近に襲せ
没

軍用手形交換高

還附條約歸法論

と本邦人の数及び金の産額等を詰問したり内四人は龍山に逃げ帰り他は抑留せらる

當地第一銀行出張所にて事務開始以来本日まで軍用手形交換高は三十二萬二千円以上に達せり

（韓地）

韓廷部内除に外部に於ては日露開戰以来日本より或は電上鉄道、電信地等の使用を要求し来りたる事なるも今日の場合之等のものに對しては臨時使用を許さゞる可からざるなり然るに平和回復の暁には日本をして之等の権利を還附せしむるは當然の事なれば他日の紛擾を防ぐ為め露国の間に還附條約を歸結し置くべき極なりとの議論稍や勢力を占め居る模様なり右に付き近日我公使の要求に係る黄海道清平浦の三道漁業権の如きも議政府等に於て免角躊躇をなし容易に決定を與へざるの運びに至らざるは中枢院議長李道宰と摩政胡乗武との軋轢甚なる為なるべきも韓廷内に斯の如き意向の存在せる事は又其一原因なるべしとのこと

北韓義兵の暴狀

五月十四日（一京城発）

平安道觀察使より本日外部に達したる電報に
よれば去る十日安州を襲ひし義兵は寧遠、德
川、寧邊、价川等沿道至る所糧馬徵發し
家財を掠奪し婦女を辱しめ走るなく民となく
遇ふ者毎に之を打擲せるのみならず
殊に价川にては獄を破りて囚徒を放出せる外
の暴狀を呈し居民之を怖れて四散せりと